

وَمَا مِنْ دَابَّةٍ فِي الْأَرْضِ إِلَّا عَلَى اللَّهِ رِزْقُهَا وَيَعْلَمُ مُسْتَقَرَّهَا وَمُسْتَوْدَعَهَا كُلٌّ فِي كِتَابٍ مُبِينٍ ﴿٦﴾ وَهُوَ الَّذِي خَلَقَ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ فِي سِتَّةِ أَيَّامٍ وَكَانَ عَرْشُهُ عَلَى الْمَاءِ لِيَبْلُوَكُمْ أَيُّكُمْ أَحْسَنُ عَمَلًا وَلَئِنْ قُلْتُمْ إِنَّكُمْ مَبْعُوثُونَ مِنْ بَعْدِ الْمَوْتِ لَيَقُولَنَّ الَّذِينَ كَفَرُوا إِنْ هَذَا إِلَّا أَسْحَرٌ مُبِينٌ ﴿٧﴾ وَلَئِنْ أَخَّرْنَا عَنْهُمُ الْعَذَابَ إِلَى أُمَّةٍ مَعْدُودَةٍ لَيَقُولُنَّ مَا يَحْبِسُهُ ۗ أَلَا يَوْمَ يَأْتِيهِمْ لَيْسَ مَصْرُوفًا عَنْهُمْ وَحَاقَ بِهِمْ مَا كَانُوا بِهِ يَسْتَهْزِئُونَ ﴿٨﴾ وَلَئِنْ أَذَقْنَا الْإِنْسَانَ مِنَّا رَحْمَةً ثُمَّ نَزَعْنَاهَا مِنْهُ إِنَّهُ لَيَكْفُرُ ۖ كَفُورٌ ﴿٩﴾ وَلَئِنْ أَذَقْنَاهُ نَعْمَاءَ بَعْدَ ضَرَاءٍ مَسَّتْهُ لَيَقُولَنَّ ذَهَبَ السَّيِّئَاتِ عَنِّي إِنَّهُ لَفَرِحٌ فَخُورٌ ﴿١٠﴾ إِلَّا الَّذِينَ صَبَرُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ أُولَٰئِكَ لَهُمْ مَغْفِرَةٌ وَأَجْرٌ كَبِيرٌ ﴿١١﴾ فَلَعَلَّكَ تَارِكٌ بَعْضَ مَا يُوحَىٰ إِلَيْكَ وَضَائِقٌ بِهِ صَدْرُكَ أَنْ يَقُولُوا لَوْلَا أُنزِلَ عَلَيْهِ كِتَابٌ أَوْجَاءَ مَعَهُ وَمَلِكٌ ۖ إِنَّمَا أَنْتَ نَذِيرٌ ۗ وَاللَّهُ عَلَىٰ كُلِّ شَيْءٍ وَكِيلٌ ﴿١٢﴾

⑥地球上の生物は、それが何であれ、アッラーの恩寵を享受していないものはない。**かれ**は、それらが地球上のどこに住んでいるか、そしてどこで死ぬのかを知っている。被造物すべての恩寵や生死の場は、保護された碑版である明確な書に記されている。

⑦天地を壮大な形で創造したのは**かれ**であり、6日間で天地の間に含まれる全てのものを創造した。**かれ**がそれらを創造する前、**かれ**の玉座は水の上にあった。人々よ、アッラーはあなたの方の内、誰が**かれ**を喜ばせる行いをし、そして誰が**かれ**を怒らせる行いをするのかを試みるために、これらすべてを創造したのだ。**かれ**は各集団に値するものを報われるのだ。使徒よ、あなたが「人々よ、あなた方は死んだ後、精算のために復活させられるのだ」と言うなら、アッラーを信じず、復活を拒否する者たちは、「あなたが唱えるこのクルアーンは、単なる魔術に過ぎず、明らかに偽だ」と言い張るだろう。

⑧もし、**われら**が偶像崇拜者たちに対する現世の懲罰を延期したなら、彼らは、懲罰を遅らせているのは何なのかと言って、すぐにそれが来るよう求めて嘲笑する。実に、彼らにふさわしい懲罰はアッラーによって定められた時にもたらされ、その時、彼らはそれを防ぐものを見い出すことはない。彼らが嘲笑しつつ、すぐに来るように要求した懲罰は彼らに降りかかり、彼らを取り囲むのである。

⑨もし、**われら**が人間に健康や富などの祝福を受けた後、その祝福を彼らから奪うと、彼らは**われら**の慈悲への希望を失い、**われら**の祝福を忘れて非常に恩知らずな者たちとなる。

⑩また、貧困や病気を経験させた後、**われら**がそのような者に多くの恩寵や健康を与えると、彼は「私の悩みはなくなり、困難は去った」と言うだろう。彼は**われら**の祝福に感謝する代わりに、それにうぬぼれて傲慢となり、人々に対して誇り高く顔を上げて自慢する。

⑪つらい時も忍耐強く、善行に励み、悪行を避ける者たちだけは、そうではない。これらの善良な者たちは、困難な時期に希望を失ったり、アッラーの祝福に感謝しなかったり、傲慢であったりもしない。それゆえ、彼らは主から罪を赦され、来世の大いなる報奨を受け取るのである。

⑫使徒よ、彼らの不信仰、頑迷さ、兆候の要求により、あなたはアッラーがあなたに伝えるよう啓示したものの一部を彼らに伝えることを躊躇するかも知れない。彼らはその実践に困難を訴えるからである。彼らが「なぜ彼には豊かな財宝が授けられなかったのか。なぜ彼の真実性を証明するため、彼と共に天使が現れなかったのか？」と言うこと恐れ、あなたはその伝達を躊躇するかもしれないが、それでも啓示を伏せてはならない。あなたはただ、アッラーがあなたに伝達するよう命じたものを述べ伝える警告者に過ぎず、彼らが要求する兆候を示してやる必要はない。アッラーは全ての事を司る御方である。

本諸節の功徳:

- アッラーの知識がいかに広大であるかについて。そして人間や動物といった被造物にかれが恩寵を与えたこと。
- 創造の理由が説明され、それはアッラーの命令に対する僕の服従と、禁止の忌避を試みるためだということ。
- 人は、罪を犯した者たちに与えられている、アッラーの寛容な猶予に惑わされるべきではないということ。彼らは気づかぬ間に突如、懲罰に取り囲まれるのである。
- 繁栄と困難という2つの人間の状態を示し、忍耐強く感謝する信仰者は称賛に値する。

أَمْ يَقُولُونَ افْتَرَيْنَاهُ قُلْ فَأْتُوا بِعَشْرِ سُوْرٍ مِثْلِهِ مُفْتَرِيَاتٍ
 وَأَدْعُوا مَنْ أَسْتَطَعْتُمْ مِنْ دُونِ اللَّهِ إِنْ كُنْتُمْ صَادِقِينَ ﴿١٣﴾
 فَأَلَمْ يَسْتَجِيبُوا لَهُمْ فَأَعْلَمُوا أَنَّمَا أَنْزَلَ بِعِلْمِ اللَّهِ وَإِنَّ
 لَآ إِلَهَ إِلاَّ هُوَ فَهَلْ أَنْتُمْ مُسْلِمُونَ ﴿١٤﴾ مَنْ كَانَ يُرِيدُ الْحَيَاةَ
 الدُّنْيَا وَزِينَتَهَا نُوفِّ إِلَيْهِمْ أَعْمَالَهُمْ فِيهَا وَهُمْ فِيهَا
 لَا يُبْخَسُونَ ﴿١٥﴾ أُولَئِكَ الَّذِينَ لَيْسَ لَهُمْ فِي الآخِرَةِ إِلاَّ
 النَّارُ وَحِيطَ مَا صَنَعُوا فِيهَا وَبَطُلَ مَا كَانُوا يَعْمَلُونَ ﴿١٦﴾
 أَفَمَنْ كَانَ عَلَى بَيْتَةٍ مِنْ رَبِّهِ وَبِتِلْوَاهُ شَاهِدٍ مِنْهُ وَمِنْ قِبَلِهِ
 كِتَابٌ مُوسَى إِمَامًا وَرَحْمَةً أُولَئِكَ يُؤْمِنُونَ بِهِ وَمَنْ يَكْفُرْ
 بِهِ مِنَ الأَحْزَابِ فَأَلْتَارُ مَوْعِدُهُ فَلَاتَكَ فِي مِرْيَةٍ مِنْهُ إِنَّهُ
 الْحَقُّ مِنْ رَبِّكَ وَلَئِنْ أَكْثَرَ النَّاسُ لَا يُؤْمِنُونَ ﴿١٧﴾ وَمَنْ
 أَظْلَمُ مِمَّنْ افْتَرَى عَلَى اللَّهِ كَذِبًا أُولَئِكَ يُعْرَضُونَ عَلَى
 رَبِّهِمْ وَيَقُولُ الأَشْهَادُ هَؤُلَاءِ الَّذِينَ كَذَبُوا عَلَى رَبِّهِمْ
 أَلَا لَعْنَةُ اللَّهِ عَلَى الظَّالِمِينَ ﴿١٨﴾ الَّذِينَ يَصُدُّونَ عَنْ سَبِيلِ
 اللَّهِ وَيَبْغُونَهَا عِوَجًا وَهُمْ بِالآخِرَةِ هُمْ كَافِرُونَ ﴿١٩﴾

あなたはクルアーンと彼らの終着の場について疑いを抱いてはならない。それは真実であり、疑いの余地がないのだ。ただし、明確な兆候と証拠があるにもかかわらず、ほとんどの者たちは信仰を持つことはない。

⑬誰であれ、アッラーについて嘘をつき、かれに同位者や子を帰属させる者ほど不義の甚だしい者はいない。アッラーについて嘘をつく者は裁きの日にかれの前に連れて行かれ、行為について尋ねられると、天使と使徒の中からの彼らに対する証人は、彼らがアッラーに同位者や子を帰属させ、嘘をついたと証言するだろう。アッラーが彼らの慈悲を奪うのは、彼らのアッラーについての嘘によるものである。

⑭人々をアッラーの正道から妨げ、その正しさに歪曲を加えようと願う者たちは、死後の復活を否定するのである。

本諸節の功德:

- 偶像崇拜者に対するアッラーの挑戦は、クルアーンのような10の章句を創作することであり、彼らはそれに失敗することが強調される。
- たとえ不信者たちが現世で望むものを与えられたとしても、来世では地獄の業火が待ち受けており、それらは無意味となる。
- アッラーについて嘘をつく者の罪、そして来世での懲罰の重大さが強調される。

⑬偶像崇拜者たちは、クルアーンがアッラーの啓示ではなく、ムハンマドの創作だと言うのか。使徒よ、彼らへ言うのだ。「もしクルアーンが創作であるというあなたの方の主張が真実であると言うのなら、クルアーンと同様の10の章句を作ってみよ。その目的を達成できるなら、アッラー以外の他の援助者の助けを求めても構わない。」

⑭彼らには到底、それを成す術はないのだが、使徒による挑戦を果たすことができなければ、クルアーンがアッラーの知識と共に使徒へと啓示され、それが創作されたものではなく、かれ以外の真の神は存在しないということに信仰者たちは確信せねばならない。こうした決定的な証拠の後、献身的にアッラーへ服従するのだろうか、かれは尋ねる。

⑮現世の生活と、その儚い享楽を望み、行為に基づく来世を望まないなら、アッラーは彼らに健康や安全、豊かな富といった現世での報いを与える。彼らはその行為に対する報いを少しも減らされることはないだろう。

⑯こうした願望を抱く者たちに対する復活の日の報いは、彼らが入ることになる地獄の業火に他ならない。そのとき、彼らの現世での行為に対する報奨は消えてしまい、役立つしない。なぜならそれらは信仰や正しい意図に基づいたものではなく、アッラーの報奨と来世の住処を望んでのものではなかったからである。

⑰預言者ムハンマドは、至高なる主による明確な証拠を携えている。それは、彼の発言の真実性を証明する高貴なクルアーンであり、ムーサーに啓示されたトーラー同様、彼の預言者としての真実性を証明する。彼は人々への導きと慈悲として遣わされた。彼らはクルアーンと、その啓示を受けたムハンマドを信じており、彼らは目的もなくさまよう不信者たちと同じではない。それを信じない者たちの様々な集団に関しては、復活の日には地獄の業火が終着の場として約束される。預言者よ、それゆえあ

أُولَئِكَ لَمْ يَكُونُوا مُعْجِزِينَ فِي الْأَرْضِ وَمَا كَانَ لَهُمْ مِنْ دُونِ اللَّهِ مِنْ أَوْلِيَاءَ يُضْعِفُ لَهُمْ الْعَذَابَ مَا كَانُوا يَسْتَطِيعُونَ السَّمْعَ وَمَا كَانُوا يُبْصِرُونَ ﴿٣٥﴾ أُولَئِكَ الَّذِينَ خَسِرُوا أَنْفُسَهُمْ وَضَلَّ عَنْهُمْ مَا كَانُوا يَفْتَرُونَ ﴿٣٦﴾ لِأَجْرِ مَا أَنَّهُمْ فِي الْآخِرَةِ هُمْ الْأَخْسَرُونَ ﴿٣٧﴾ إِنَّ الَّذِينَ ءَامَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ وَأَخْبَتُوا إِلَىٰ رَبِّهِمْ أُولَئِكَ أَصْحَابُ الْجَنَّةِ هُمْ فِيهَا خَالِدُونَ ﴿٣٨﴾ *مِثْلُ الْفَرِيقَيْنِ كَالْأَعْمَىٰ وَالْأَصْمَىٰ وَالْبَصِيرَ وَالسَّمِيعَ هَلِ يَسْتَوِيَانِ مَثَلًا أَفَلَا تَتَذَكَّرُونَ ﴿٣٩﴾ وَلَقَدْ أَرْسَلْنَا نُوحًا إِلَىٰ قَوْمِهِ إِتَىٰ لَكُمْ نَذِيرٌ مُّبِينٌ ﴿٤٠﴾ أَنْ لَا تَعْبُدُوا إِلَّا اللَّهَ إِنِّي أَخَافُ عَلَيْكُمْ عَذَابَ يَوْمِ الْيَوْمِ ﴿٤١﴾ فَقَالَ الْمَلَأُ الَّذِينَ كَفَرُوا مِنْ قَوْمِهِ مَا تَرَكُ إِلَّا بَشَرًا مِثْلَنَا وَمَا تَرَكُ أَتَّبِعُكَ إِلَّا الَّذِينَ هُمْ أَرَادُوا أَنْ يَبَادُوا بِرَأْيِ وَمَا تَرَىٰ لَكُمْ عَلَيْنَا مِنْ فَضْلٍ بَلْ نَظُنُّكُمْ كَاذِبِينَ ﴿٤٢﴾ قَالَ يَقَوْمِ أَرَأَيْتُمْ إِنْ كُنْتُ عَلَىٰ بَيْنَةٍ مِنْ رَبِّي وَعَآتَنِي رَحْمَةً مِنْ عِنْدِهِ فَعَمِيتَ عَلَيْكُمْ أَنْزِلْكُمْ مَوْتًا وَأَنْتُمْ لَهَا كَارِهُونَ ﴿٤٣﴾

الجزء الثاني عشر

⑳もしアッラーが彼らに懲罰を下す意思があるならば、そのような者たちは、現世でアッラーから逃れることはできない。アッラーの懲罰が彼らにもたらされるのを止めることのできる、アッラー以外の守護者はいないのである。彼らは自分たちが背いただけでなく、他の人々もアッラーの道から背かせたので、復活の日の彼らの懲罰は増加するだろう。彼らは真理に対する強い嫌悪感のため、現世において真実の導きを聞いても受け入れることができず、有益なアッラーの兆候を目にすることもなかった。

㉑彼らは、自分自身を失い、アッラーに同位者を帰属させて自ら破滅に向かう者たちである。そして、彼らが祀り上げた同位者や仲介者は、彼らを見捨てるのである。

㉒来世において、彼らが最大の敗北者となることは確かである。なぜなら彼らは信仰に対して不信仰を、来世に対して現世を、そして慈悲に対して懲罰を取り替えたからである。

㉓アッラーとその使徒への信仰を持ち、善行に励む者は謙虚であり、アッラーを畏れる。彼らは永遠に生きる天国の民である。

㉔不信仰者と信仰者を例えると、不信仰者は目の見えない盲人が耳の聞こえない啞者のようである。真実を聞いても受け入れようとしないのが不信仰者だからである。彼らは自分たちにとって有益なものであれ、それを見ようとはしない。一方、見聞きができる者のように、見たり聞いたりできるのは信仰者である。それら双方の状態と性質は同じであろうか。それらは同じではない。それらの本質がいかに異なるかを考慮しないのか。

偶像崇拜者たちによる信仰への拒絶姿勢が明らかになったとき、アッラーは預言者を慰め、拒絶されたのは彼が最初ではないと言い、かれは同様に扱われた他の預言者たちの物語に言及した。

㉕われらはヌーフを、彼の民へ使徒として遣わせた。ヌーフは、人々にアッラーの懲罰について警告するために遣わされたたと伝え、その教えを非常に明白に伝達した。

㉖ヌーフが民にアッラーのみを崇拜し、かれ以外の者を崇拜しないよう呼びかけたのは、人々が苦難の日の懲罰を受けることを恐れたからである。

㉗ヌーフの民の権力者たちは、彼の呼びかけに応じなかった。彼らは、ヌーフが彼らよりも優れているようには見えず、彼ら同様の人間に過ぎないと言った。また、彼らのうちでも最も身分の低い者たちだけが、ヌーフの主張に対して慎重に検討したり状況を調査したりすることもなく愚直に従っているだけだと述べた。彼らは、信仰者たちが彼らよりも高貴でも裕福でもなく、彼らよりも高い地位も持っておらず、彼らに勝る価値は認められないと主張した。それどころか、彼らは信仰者たちが嘘つきであるとみなした。

㉘ヌーフは民に言った。「私の主張が真実であると証明する、主からの明白な預言と教えという証拠を私が携えていても、あなた方が疑念や無知からそれを理解できなければ、私たちはあなた方の意志に反し、信仰を押し付けるべきだとでもいうのか。いや、人に信仰を与えるのはアッラーだけであり、私たちの役目ではない。」

本諸節の功德:

- 不信仰者は信仰者とは違い、聴覚や視覚が信仰へとつながらない。そのため、信仰者とは異なり、彼らはあなたもそれらの能力を有していないかのようである。
- アッラーの習わしとして、使徒の追従者たちの大部分が貧しく社会的に弱い勢力である一方、彼らの敵の多くは社会的に重要な地位の指導者たちであること。
- 権力者たちのほとんどが、驕り高ぶった者たちであること。

وَيَقُولُ مَا أَسْأَلُكُمْ عَلَيْهِ مَا لِي أَنْ أَجْرِي إِلَّا عَلَى اللَّهِ وَمَا أَنَا
 بِطَارِدِ الَّذِينَ آمَنُوا إِنَّهُمْ مُلْقَوَاءُ رَبِّهِمْ وَلَٰكِنِّي أَرَأَيْتُمْ قَوْمًا
 تَجْهَلُونَ ﴿٣٥﴾ وَيَقُولُونَ مَنْ يَنْصُرُنِي مِنَ اللَّهِ إِنْ طَرَدْتُهُمْ أَفَلَا
 تَذَكَّرُونَ ﴿٣٦﴾ وَلَا أَقُولُ لَكُمْ عِنْدِي خَزَائِنُ اللَّهِ وَلَا
 أَعْلَمُ الْغَيْبَ وَلَا أَقُولُ إِنِّي مَلَكٌ وَلَا أَقُولُ لِلَّذِينَ تَزْدَرِي
 أَعْيُنُكُمْ لَنْ يُؤْتِيَهُمُ اللَّهُ خَيْرًا اللَّهُ أَعْلَمُ بِمَا فِي أَنْفُسِهِمْ إِنِّي
 إِذًا لَمِنَ الظَّالِمِينَ ﴿٣٧﴾ قَالُوا لَئِن نُّوحٍ قَدْ جَدَلْنَا فَا كَثُرَتْ جِدَلَانَا
 فَاتَّبِعْنَا بِمَا تَعَدَّنَا إِنْ كُنْتَ مِنَ الصَّادِقِينَ ﴿٣٨﴾ قَالَ إِنَّمَا
 يَأْتِيَكُمْ بِهِ اللَّهُ إِنْ شَاءَ وَمَا أَنْتُمْ بِمُعْجِزِينَ ﴿٣٩﴾ وَلَا يَنْفَعُكُمْ
 نُصْحِي إِنْ أَرَدْتُ أَنْ أُنصَحَ لَكُمْ إِنْ كَانَ اللَّهُ يُرِيدُ أَنْ
 يُغْوِيَكُمْ هُوَ رَبُّكُمْ وَإِلَيْهِ تُرْجَعُونَ ﴿٤٠﴾ أَمْ يَقُولُونَ أَفْتَرَىٰ
 قُلُوبَ إِنْ أَفْتَرَيْتُهُ وَقَعَلَىٰ إِجْرَامِي وَأَنَا بَرِيءٌ مِّمَّا يُجْرِمُونَ
 ﴿٤١﴾ وَأَوْحَىٰ إِلَىٰ نُوحٍ أَنَّهُ لَنْ يُؤْمِنَ مِنْ قَوْمِكَ إِلَّا مَن قَدَّ آمَنَ
 فَلَا تَبْتَئِسْ بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ ﴿٤٢﴾ وَأَصْنَعِ الْفُلَكَ بِأَعْيُنِنَا
 وَوَحِّينَا وَلَا تَخْطِبَنَّ فِي الَّذِينَ ظَلَمُوا إِنَّهُمْ مُّعْرِضُونَ ﴿٤٣﴾

〔34〕もしアッラーがあなた方の頑迷さから、あなた方を導くことなく正道から迷わせることを望むのなら、私の助言や警告はあなた方にとって無益である。かれこそはあなた方の主であり、あなた方の諸事を司っているのだ。そしてあなた方は、行いが清算される復活の日、かれのもとへ戻るのである。〕

〔35〕ヌーフの民はその不信仰から、ヌーフが彼らにもたらしたこの信仰について、捏造されたものと主張した。使徒よ、言え。「もし私がそれを捏造したのであれば、私は不義者として、自らの罪の懲罰が私に降りかかるだろう。しかし、私のもたらすものが真実であるにも関わらず、あなた方が頑迷さと誇りからそれを拒絶するなら、あなた方こそが不義者となり、私はいかなる形であれ、あなた方の罪に対して責任を負わず、無実である。〕

〔36〕ヌーフはアッラーにより啓示された。「ヌーフよ、すでに信じている者を除き、あなたの方の民は誰一人として信じない。ヌーフよ、長きにわたる彼らの拒絶と嘲笑に悲しんではならない。

〔37〕われらの観察と加護の下、箱舟を建造せよ。そしてわれらの啓示により、その建造法を知るだろう。不信仰によって自ら不義に陥った者たちに猶予を与えたいがために、われに訴えかけてはならない。彼らは不信仰に固執した結果として、必ず洪水で溺死するのである。〕

本諸節の功德:

- アッラーに嘆願する者が望むものは、かれによる報奨のみである。
- 貧しい信仰者たちに対しては、寛大さと名誉をもって扱われなければならない、追い払うことは禁じられる。
- 不可視の知識を有するのは、アッラーのみである。
- 真実を否定する者たちとの議論は、宗教的に合法である。

〔38〕ヌーフは民に言った。「私は教えの伝達に対する金銭的な見返りを求めはしなかった。私に報奨するのはアッラーのみである。私はあなた方が私にそう求めるように、信仰者の貧しい者たちを追放したりはしなかった。彼らは復活の日にあッラーに相見え、彼らの信仰は報われるであろう。あなた方が信仰者の貧しい者たちを追放するよう求めたとき、私はあなた方が現実を理解しない者たちであると見た。〕

〔39〕ヌーフは民に言った。「私が罪のない貧しい信仰者たちを不当に追放したなら、一体誰がアッラーの懲罰から私を守ると言うのか。あなた方は、自分たちにとって何が正しく有益なのかについて熟考し、努力しないのか。〕

〔40〕ヌーフは民に言った。「私は、自分がアッラーの財宝を持っているとは言わない。もしそうなら、あなた方が信じればそれを施しただろう。また、自分に不可視の知識があるとも言わない。また、私たちはあなた方と同じ人間であり、天使ではない。また、あなた方が軽蔑する貧しい者たちについても、彼らが劣っており、アッラーは彼らに成功と指導を与えないだろうとも言わない。アッラーこそは、彼らの意図と状態を最もよくご存知である。私がおののような主張をしたなら、アッラーの懲罰に値する不義者の一人となるだろう。〕

〔41〕民は頑固さと誇りから、ヌーフに言った。「ヌーフよ、我々はもう十分に長い間議論し、論争した。あなたの主張が真実であるなら、約束された懲罰を我々にもたらしてみよ。〕

〔42〕ヌーフは民に言った。「私はあなた方に懲罰をもたらすことはできない。もしアッラーが望むのなら、それはかれのみによってもたらされるだろう。そしてもしアッラーがあなた方に懲罰を下すのなら、あなたがたは決してその懲罰から逃れることはできないだろう。

وَيَصْنَعُ الْفُلَكَ وَكَمَا مَرَ عَلَيْهِ مَلَأُ مِنْ قَوْمِهِ سَخِرُوا مِنْهُ
 قَالَ إِنْ تَسْخَرُوا مِنَّا فَإِنَّا نَسْخَرُ مِنْكُمْ كَمَا تَسْخَرُونَ
 ﴿٣٨﴾ فَسَوْفَ نَعْتَمُونَ مَنْ يَأْتِيهِ عَذَابٌ يُخْزِيهِ وَيَحِلُّ عَلَيْهِ عَذَابٌ
 مُثْقِمٌ ﴿٣٩﴾ حَتَّىٰ إِذَا جَاءَ أَمْرُنَا وَفَارَ التَّنُورُ قُلْنَا احْمِلْ فِيهَا
 مِنْ كُلِّ زَوْجَيْنِ اثْنَيْنِ وَأَهْلَكَ إِلَّا مَنْ سَبَقَ عَلَيْهِ الْقَوْلُ
 وَمَنْ أَمِنَ وَمَنْ آمَنَ مَعَهُ إِلَّا قَلِيلٌ ﴿٤٠﴾ وَقَالَ ارْكَبُوا
 فِيهَا بِسْمِ اللَّهِ مَجْرِبَهَا وَمُمْسِكُهَا إِنَّ رَبِّي لَعَفُورٌ رَحِيمٌ
 ﴿٤١﴾ وَهِيَ تَجْرِي بِهِمْ فِي مَوْجٍ كَالْجِبَالِ وَنَادَىٰ نُوحٌ ابْنَهُ
 وَكَانَ فِي مَعْزِلٍ يَا بُنَيَّ ارْكَبْ مَعَنَا وَلَا تَكُنْ مَعَ الْكَافِرِينَ ﴿٤٢﴾
 قَالَ سَتَأْتِي إِلَىٰ جَبَلٍ يَعْصِمُنِي مِنَ الْمَاءِ قَالَ لَا عَاصِمَ الْيَوْمَ
 مِنْ أَمْرِ اللَّهِ إِلَّا مَنْ رَحِمَ وَحَالَ بَيْنَهُمَا الْمَوْجُ فَكَانَ مِنَ
 الْمُغْرَقِينَ ﴿٤٣﴾ وَقِيلَ يَا أَرْضُ ابْلَعِي مَاءَكِ وَيَسْمَأِ أَفْلَحِي
 وَغِيضَ الْمَاءِ وَقُضِيَ الْأَمْرُ وَاسْتَوَتْ عَلَىٰ الْجُودِيِّ وَقِيلَ
 بُعْدًا لِلْقَوْمِ الظَّالِمِينَ ﴿٤٤﴾ وَنَادَىٰ نُوحٌ رَبَّهُ فَقَالَ رَبِّ إِنَّ ابْنِي
 مِنْ أَهْلِي وَإِنَّ وَعْدَكَ الْحَقُّ وَأَنْتَ أَحْكَمُ الْحَاكِمِينَ ﴿٤٥﴾

38) ヌーフは主の命令に従い、すぐに箱舟の建造を始めた。民の中の権力者たちが通り過ぎるときは、いつも彼を嘲笑していた。その側には水も川もなかったからである。彼らによる嘲笑が続いたとき、彼は言った。「権力者たちよ。箱舟を建造する私たちを嘲笑するなら、溺死するという事実に対して無知なあなた方を、私たちは嘲笑しよう。」

39) 「あなた方はやがて、不名誉かつ屈辱的な懲罰と、復活の日において永遠に途絶えることのない懲罰が誰に下されるのかを知るだろう。」

40) ヌーフはアッラーに命じられた箱舟の建造を終えた。それからかれの命令は、彼らを破滅させるためにもたらされた。彼らが焼いていた炉から水が噴出し、洪水の始まりを告げた。われらはヌーフに言った。「地球上のあらゆる種類の動物、オスとメスのつがいを箱舟に乗せよ。そしてあなたの家族で信じなかったために既に溺死が定められた者以外、そして民の中からあなたを信じた人々を連れ込むのだ。」長い間に渡り、彼はアッラーへの信仰を持つよう呼びかけていたにもかかわらず、民からはごく少数の者しか彼を信じなかった。

41) ヌーフは彼の家族と民の信仰者たちに言った。「箱舟に乗るのだ。その航行と着陸においてアッラーの御名を唱えよ。主は悔悟する僕たちの罪を赦し、彼らに慈悲をかける。かれの慈悲によって、信仰者たちは破滅を免れるのである。」

42) 箱舟は、山のように大きな波を通り抜け、人間と動物を乗せて航海した。ヌーフは隔離されていた、不信仰者の息子を憐れんで呼びかけた。「息子よ、一緒に箱舟に乗って洪水から逃れよう。あなたが不信仰者たちと共にいるのであれば、あなたは溺れてしまう。」

43) ヌーフの息子はヌーフに言った。「私は水の届かない高い山に避難します。」ヌーフは息子に言った。「アッラーの慈悲により救われる者を除いては、洪水の懲罰から救われる者は誰もいない。」するとヌーフと息子の間は波で隔たれ、息子はその不信仰によって溺れたのである。

44) 洪水の後、アッラーは大地に命じた。「大地よ、洪水を飲み込め。」そして天に命じた。「降雨を止めよ。」すると水は減り、土地は乾いた。こうしてアッラーは不信仰者を破滅させた。箱舟はジュディー山の上に止まった。アッラーは言った。「不信仰者たちは消え去り、滅ぼされた。彼らは不信仰によってアッラーの定めを超えたのである。」

45) ヌーフは彼の主に呼びかけて言った。「主よ、息子は私の家族であり、あなたは彼が救われると約束された。あなたの約束こそは常に真実であり、あなたこそは最もよく知る裁決者の中でも最も公正である。」

本諸節の功德:

- 偶像崇拜者たちは、預言者とその信仰者たちを常々嘲笑していた。
- アッラーの習わしとして、人々の殆どは信仰を持たない。
- 至高なるアッラー以外に帰る所はなく、かれ以外に守護者はいない。

قَالَ يَنْفُوحُ إِنَّهُ لَيْسَ مِنْ أَهْلِكَ إِنَّهُ عَمَلٌ غَيْرُ صَالِحٍ فَلَا تَسْتَلِنَ
 مَا لَيْسَ لَكَ بِهِ عِلْمٌ إِنِّي أَعِظُكَ أَنْ تَكُونَ مِنَ الْجَاهِلِينَ
 ﴿٤٦﴾ قَالَ رَبِّ إِنِّي أَعُوذُ بِكَ أَنْ أَسْأَلَكَ مَا لَيْسَ لِي بِهِ عِلْمٌ وَإِلَّا
 تَغْفِرْ لِي وَتَرْحَمْنِي أَكُنْ مِنَ الْخَاسِرِينَ ﴿٤٧﴾ قِيلَ يَنْفُوحُ
 أَهْبِطْ بِسَلَامٍ مِنَّا وَبَرَكَاتٍ عَلَيْكَ وَعَلَى أُمَمٍ مِمَّنْ مَعَكَ
 وَأُمَّرُ سَمِعْتَهُمْ تَرِيْمُسُهُمْ مَتَاعِدَابِ الْيَوْمِ ﴿٤٨﴾ تِلْكَ
 مِنْ أَنْبَاءِ الْغَيْبِ نُوحِيهَا إِلَيْكَ مَا كُنْتَ تَعْلَمُهَا أَنْتَ
 وَلَا قَوْمُكَ مِنْ قَبْلِ هَذَا فَاصْبِرْ إِنَّ الْعُقَبَةَ لِلْمُتَّقِينَ ﴿٤٩﴾
 وَإِلَى عَادٍ أَخَاهُمْ هُودًا قَالَ يَقَوْمِ أَعْبُدُوا اللَّهَ مَا لَكُمْ مِنْ
 إِلَهٍ غَيْرُهُ وَإِنْ أَنْتُمْ إِلَّا مُفْتَرُونَ ﴿٥٠﴾ يَقَوْمِ لَا أَسْأَلُكُمْ عَلَيْهِ
 أَجْرًا إِنْ أَجْرِي إِلَّا عَلَى الَّذِي فَطَرَنِي أَفَلَا تَعْقِلُونَ ﴿٥١﴾
 وَيَقَوْمِ اسْتَغْفِرُ وَارْتَبِكُمْ ثُمَّ تُوْبُوا إِلَيْهِ يُرْسِلُ السَّمَاءَ
 عَلَيْكُمْ مَدْرَارًا وَيَبِذُّكُمْ قُوَّةً إِلَى قَوْتِكُمْ وَلَا تَتَوَلَّوْا
 مُجْرِمِينَ ﴿٥٢﴾ قَالُوا يَا هُودُ مَا جِئْتَنَا بِبَيِّنَةٍ وَمَا نَحْنُ
 بِتَارِكِي آلِ هَارُونَ عَنْ قَوْلِكَ وَمَا نَحْنُ لَكَ بِمُؤْمِنِينَ ﴿٥٣﴾

たアッラーからのみである。あなた方はそれを理解し、この呼びかけに応じることができないのか。

〔52〕民よ、アッラーからの赦しを求め、罪から離れて悔悟せよ。最大の罪とは、**かれ**に同位者を置くことである。**かれ**は豊富な雨を降らせてあなた方に報い、子孫と富の増加によってあなた方の勢力に力添えするだろう。あなた方は私の呼びかけを拒絶し、アッラーへの不信仰から罪深い者となつてはならない。〕

〔53〕民は言った。「フードよ。あなたは、私たちを信じさせるような明確な証拠をもたらしてはいない。また私たちは、あなたの根拠のない言葉だけで神々への崇拝を止めたりはしないし、あなたが使徒であるという主張も信じたりはしない。」

本諸節の功德:

- 預言者たちは、たとえ彼らの子供であれ、アッラーを信じない人々のために嘆願することはできない。
- 真理の伝達者の慎み深さと、人々の悪影響から遠ざかることの利点。
- 許しを求めることと悔悟の大きな美徳。それは子孫と富の繁栄、または慈悲の雨の要因である。

〔46〕アッラーはヌーフに言った。「あなたが救いを求めた息子は不信仰者であり、**われ**が救済を約束したあなたの家族の一員ではない。ヌーフよ、あなたの求めはあなたのような地位の者として適切ではない。あなたの知識にはないことを尋ねて、**われ**の知識と英知に反するような、無知な者の一人とはならないよう忠告する。」

〔47〕ヌーフは言った。「主よ、私が知りもしないことを**あなた**に尋ねたりしないよう、お助けください。もし**あなた**が私の罪を許さず、慈悲を受けることがなければ、私は来世において、自らの分け前を失った敗者の一人となってしまうことでしょう。」

〔48〕アッラーはヌーフに言った。「箱舟から安全な大地へと、安心して降りよ。アッラーからの多大な祝福があなたにあるだろう。そしてそれは、あなたと箱舟を共にした信仰者たちの子孫にもあるだろう。また、彼らの子孫からは、**われら**が現世のひとときの生活を楽しませる不信仰者たちの共同体も出てくるが、彼らへは**われら**の痛烈な懲罰が下されるだろう。」

〔49〕このヌーフの物語は、不可視の世界からの知らせである。使徒よ、**われら**による啓示の前、あなたとあなたの民はそれについて知らなかった。それゆえ、ヌーフが忍耐したように、民による迫害や拒絶を耐え忍べ。救済と勝利は、アッラーの命令に従い、**かれ**が禁じたものから遠ざかる者たちにもたらされる。

〔50〕**われら**はアードの民の中からフードを遣わした。彼は言った。「民よ、アッラーのみを崇拝せよ。そして**かれ**に何者をも配してはならない。**かれ**以外に崇拝されるべき真実の神はない。**かれ**に同位者がいると主張する者たちは、嘘つきに過ぎない。」

〔51〕民よ、私は主から伝達していることに対して、あなた方から見返りを求めてはいない。私の報奨は、私を創造したアッラーからのみである。あなた方はそれを理解し、この呼びかけに応じることができないのか。

⑤4 私たちの神々の中のあるものが、神々の崇拜を禁じたあなたを狂気付けただけなのである。」フードは言った。「私は、アッラーに証言を求め、あなた方も、あなた方がアッラーを差し置いて崇拜する他の神々の崇拜と、私が関りないことを証言せよ。

⑤5 あなた方が私を狂気付けたと主張する、それらの神々と共に私に対し策謀を企てよ。私に対する猶予は何もない。

⑤6 私の主であり、あなた方の主でもあるアッラーこそを、私は信頼する。地上のあらゆる生物は、アッラーの力と影響なしには存在できず、かれは意のままにそれらを扱う。実に私の主は、真実かつ公正であるため、私が真実を支持し、あなた方が虚偽を支持する限り、あなた方は私に対して力を持つことはないのだ。

⑤7 たとえ、あなた方が私のもたらしたものから背き続けても、私はあなた方のために、既に与えられたものの全てを伝達し、責任を果たした。証拠はあなた方にとって不利となり、主はあなた方を破滅させ、あなた方に代わって、他の民を継がせられよう。あなた方がかれを拒絶し、背いたとしても、かれは被造物を必要としてはおらず、あなた方は少しもかれを害することが出来ないのである。実に私の主は、凡てを見通され、あらゆる策謀の悪から私を守られる御方である。」

⑤8 われらの命令が彼らを破滅させたとき、われらは慈悲によってフードと彼を信じた者たちを救い、不信仰の民に与えられた厳しい懲罰から救った。

⑤9 これらが、アードの民であった。彼らは主であるアッラーの兆候を信じず、かれの使徒フードに背いた。しかし、彼らは真実を認めることなく敵対し、驕り高ぶる指導者たちの命令には従ったのである。

⑥0 その後、彼らは屈辱によって呪われ、現世におけるアッラーの慈悲から除外され、復活の日にもアッラーの慈悲から遠ざけられた。それはアッラーに対する不信仰のためであり、彼らはあらゆる善から遠ざけられ、あらゆる悪に近づけられるのである。

⑥1 われらはサムドの民の中からサーリフを遣わした。彼は言った。「民よ、アッラーに仕えなさい。かれ以外に崇拜に値する神はない。かれは大地の土からあなた方の父祖アダムを創造され、そこに住まわせられた。それでかれの赦しを乞い願ひ、かれに服従して悪行を避けつつ、かれに立ち返るのだ。本当に私の主は、真摯に崇拜する僕に近く、祈りに応えるのである。」

⑥2 民は彼に言った。「サーリフよ、あなたがそう呼びかける以前、あなたは我々にとっては高い地位のある有望な人物であった。しかしサーリフよ、あなたは今になって我々の祖先が崇拜していたものへの崇拜を禁じるのか。あなたが勧めるアッラーのみへの崇拜の教えについて、我々は強い嫌疑を持っている。」

本諸節の功徳:

- 使徒に対しての多神教徒たちの対抗手段には、愚か者・狂人呼ばわりなどがあつた。
- 多神教徒たちの策謀や敵対行為の脆弱さ。それらもアッラーの命令と権威から逃れることはないのである。
- 創造主としてのアッラーの全能性と唯一性を示す根拠。

إِن نَقُولُ إِلَّا أَعْرَبْنَاكَ بَعْضَ الْهَيْتَانِ بِسُوءِ قَوْلِ إِنِّي أَشْهَدُ اللَّهَ
وَأَشْهَدُوا أَنِّي بَرِيءٌ مِّمَّا تُشْرِكُونَ ⑤٤ مِنْ دُونِهِ فَكَيْدُ فِي
جَمِيعَاتِهِمْ لَا يُنْتَظَرُونَ ⑤٥ إِنِّي تَوَكَّلْتُ عَلَى اللَّهِ رَبِّي وَرَبِّكُمْ
مَا مِنْ دَابَّةٍ إِلَّا هُوَ آخِذٌ بِنَاصِيَتِهَا إِن رَبِّي عَلَى صِرَاطٍ مُسْتَقِيمٍ
⑤٦ فَإِنْ تَوَلَّوْا فَقَدْ أَبْلَغْتُكُمْ مَا أُرْسِلْتُ بِهِ إِلَيْكُمْ وَيَسْتَخْلِفُ
رَبِّي فَوْماً غَيْرِكُمْ وَلَا تَضُرُّوهُ وَشَيْئاً إِن رَبِّي عَلَى كُلِّ شَيْءٍ حَفِيظٌ
⑤٧ وَلَمَّا جَاءَ أَمْرُنَا نَجَّيْنَا هُودًا وَالَّذِينَ آمَنُوا مَعَهُ وَرَحِمْتَهُمْ مِنَّا
وَنَجَّيْنَا هُمْ مِنْ عَذَابٍ غَلِيظٍ ⑤٨ وَتِلْكَ آدَاءُ جَحَدُوا بِآيَاتِ
رَبِّهِمْ وَعَصَوْا أَرْسُلَهُ وَأَتَّبَعُوا أَمْرَ كُلِّ جَبَّارٍ عَنِيدٍ ⑤٩ وَأَتَّبَعُوا فِي
هَذِهِ الدُّنْيَا الْعِنَةَ وَيَوْمَ الْفَيْصِمَةِ ⑥٠ إِلَّا آدَاءُ كَفَرُوا رَبَّهُمْ إِلَّا
بَعْدَ الْعَادِ قَوْمِ هُودٍ ⑥١ * وَإِلَى ثَمُودَ أَخَاهُمْ صَالِحًا قَالَ يَا قَوْمِ
اعْبُدُوا اللَّهَ مَا لَكُمْ مِنْ إِلَهٍ غَيْرُهُ وَهُوَ أَنشَأَكُمْ مِنَ الْأَرْضِ
وَأَسْتَعْمَرَكُمْ فِيهَا فَاسْتَغْفِرُوهُ ثُمَّ تَوَلَّوْا إِلَيْهِ إِن رَبِّي قَرِيبٌ مُجِيبٌ
⑥٢ قَالُوا أَوْصَلِحْ فَكَذَّبْتَ فِينَا مَرْجُوعًا فَبَجَلْ هَذَا أَتَنْهَانَا أَنْ نَعْبُدَ
مَا يَعْبُدُ آبَاؤُنَا وَإِنَّا لَفِي شَكٍّ مِمَّا تَدْعُونَا إِلَيْهِ مُرِيبٍ ⑥٣

قَالَ يَقَوْمِ أَرَأَيْتُمْ إِنْ كُنْتُمْ عَلَىٰ بَيِّنَةٍ مِّن رَّبِّي وَعَٰتِنِي
 مِنْهُ رَحْمَةً فَمَنْ يَنْصُرُنِي مِنَ اللَّهِ إِنْ عَصَيْتُهُ فَمَا تَزِيدُونَنِي
 غَيْرَ تَخْسِيرٍ ﴿٦٦﴾ وَيَقَوْمِ هَذِهِ نَاقَةُ اللَّهِ لَكُمْ آيَةٌ
 فَذُرُّوهَا تَأْكُلْ فِي أَرْضِ اللَّهِ وَلَا تَمَسُّوهَا بِسُوءٍ فَيَأْخُذَكُمْ
 عَذَابٌ قَرِيبٌ ﴿٦٧﴾ فَعَقَرُوهَا فَقَالَ تَمَتَّعُوا فِي دَارِكُمْ
 ثَلَاثَةَ أَيَّامٍ ذَلِكَ وَعَدُّ غَيْرِ مَكْذُوبٍ ﴿٦٨﴾ فَلَمَّا جَاءَ أَمْرُنَا
 نَجِيْنَا صَالِحًا وَالَّذِينَ ءَامَنُوا مَعَهُ بِرَحْمَةٍ مِّنَّا وَمِن
 خِزْيِ يَوْمِئِذٍ إِنَّ رَبَّكَ هُوَ الْقَوِيُّ الْعَزِيزُ ﴿٦٩﴾ وَأَخَذَ الَّذِينَ
 ظَلَمُوا الصَّيْحَةَ فَأَصْبَحُوا فِي دِيَارِهِمْ جَلْثِمِينَ ﴿٧٠﴾
 كَأَن لَّمْ يَعْنُوا فِيهَا إِلَّا إِن تَمُودًا كَفَرُوا رَبَّهُمْ أَلَا
 بُعْدَ لِتَمُودَ ﴿٧١﴾ وَلَقَدْ جَاءَتْ رُسُلُنَا إِبْرَاهِيمَ بِالْبَشْرَىٰ قَالُوا
 سَلَامًا قَالَ سَلَامٌ فَمَا لَبِثَ أَن جَاءَ بِعِجْلٍ حَنِيذٍ ﴿٧٢﴾ فَلَمَّا رَأَىٰ
 أَيْدِيَهُمْ لَا تَصِلُ إِلَيْهِ نَكَرَهُمْ وَأَوَّجَسَ مِنْهُمْ خِيفَةً
 قَالُوا لَا تَخَفْ إِنَّا أُرْسِلْنَا إِلَىٰ قَوْمِ لُوطٍ ﴿٧٣﴾ وَآمَرْتَهُ وَقَائِمَةً
 فَضَحِكَتْ فَبَشَّرْنَاهَا بِإِسْحَاقَ وَمِنْ وَرَائِهِ إِسْحَاقَ يَعْقُوبَ ﴿٧٤﴾

〔63〕サーリフは民に伝えて言った。「あなた方は考えてみないのか。私が主からの明白な証拠の上に基づき、**かれ**が私に預言者としての慈悲を与えられるのに、もし私が**かれ**の命令に従わず、あなた方への伝達を怠ったならば、誰が懲罰から私を救うことが出来ようか。あなた方は私を過ちに陥れ、**かれ**のご満悦から遠ざけてしまうだけである。」

〔64〕「民よ、これはアッラーの雌ラクダであり、私の主張を証明する、あなた方に対しての明白な兆候である。これをアッラーの大地で放牧させ、危害を加えてはならない。もしそうするならば、あなた方には直ちに懲罰が下されるだろう。」

〔65〕だが、彼らはそれを拒否してラクダを傷つけた。それでサーリフは彼らに言った。「今後3日間だけ、あなた方の地で生命を楽しむのだ。その後アッラーの懲罰があなた方に下るだろう。これは嘘偽りなき真実の約束である。」

〔66〕**われら**の命令が彼らを破滅させたとき、**われら**の慈悲によって彼と民の中の信仰者たちは救われ、**われら**はその日の恥辱と屈辱から彼らを守った。使徒よ、疑いもなく、あなた方の主は誰も打ち負かすことのできない強大な御方である。こうして、不信仰者たちは破滅させられたのである。

〔67〕大きな叫び声がサムードの民を襲い、彼らはそのあまりの熾烈さから全滅した。翌朝、彼らは地面に伏せて倒れていた。

〔68〕そこはまるで、誰一人として安全に暮らしてはいなかったかのようであった。サムードの民は、彼らの主であるアッラーを信仰しなかったため、慈悲を奪われたのである。

〔69〕天使たちが男性の姿でイブラーヒームのもとに現れ、彼とその妻にイスハークとヤアクブ誕生の吉報をもたらした。天使たちは「平安あれ」と言ったので、彼も「平安あれ」と答えた。彼らを人間だと思っていたイブラーヒームは、急いで焼いた子牛で彼らをもてなした。

〔70〕しかし、彼らは子牛に手を伸ばさず、それを食べようとしないうえ、不審に思ったイブラーヒームは密かに恐怖を感じた。天使たちは彼の恐れを悟ってこう言った。「我々を恐れてはならない。我々は、アッラーの懲罰を下すため、ルートの民に遣わされたのである。」

〔71〕そこには、イブラーヒームの妻サーラが立っていた。**われら**は、彼女がイスハークを生むだろうこと、そしてイスハークの後継ぎとなるヤアクブの吉報を彼女に伝えた。彼女は笑顔でその知らせを喜んだ。

本諸節の功德:

- サーリフの兆候は最大のものの一つであったが、頑迷かつ傲慢だった彼の民はそれを信じようとしなかった。
- 信仰者が喜ぶような吉報をもたらすのは、とても望ましい。
- 他人の家に入る際「平安あれ」と言い、家主が同様に返事するのは正しい礼儀である。
- イスラーム法は、客人をもてなすよう義務付ける。

قَالَتْ يَوْتَلَيْءُ آلِدُ وَأَنَا عَجُوزٌ وَهَذَا بَعْلِي شَيْخًا إِنَّ هَذَا لَشَيْءٌ عَجِيبٌ ﴿٧٦﴾ قَالُوا أَعْجَبِينَ مِنْ أَمْرِ اللَّهِ رَحِمْتُ اللَّهَ وَبَرَكَتُهُ وَعَلَيْكُمْ أَهْلُ الْبَيْتِ إِنَّهُ وَحَمِيدٌ مَجِيدٌ ﴿٧٧﴾ فَلَمَّا ذَهَبَ عَنْ إِبْرَاهِيمَ الرَّوْعُ وَجَاءَتْهُ الْبُشْرَىٰ يُجِدُ لَنَا فِي قَوْمٍ لُوطٌ ﴿٧٨﴾ إِنَّ إِبْرَاهِيمَ لَحَلِيمٌ أَوَّاهٌ مُنِيبٌ ﴿٧٩﴾ يَا إِبْرَاهِيمُ أَعْرِضْ عَنْ هَذَا إِنَّهُ قَدْ جَاءَ أَمْرٌ رَبِّكَ وَإِنَّهُمْ لَنِبَاهِمْ عَذَابٌ عَذِيبٌ ﴿٨٠﴾ وَمَلَأَ جَاءَتْ رُسُلُنَا لُوطًا سِيسَىٰ بِهِمْ وَضَاقَ بِهِمْ ذَرْعًا وَقَالَ هَذَا يَوْمٌ عَصِيبٌ ﴿٨١﴾ وَجَاءَهُ قَوْمُهُ يُهْرَعُونَ إِلَيْهِ وَمِنْ قَبْلُ كَانُوا يَعْمَلُونَ السَّيِّئَاتِ قَالَ يَتَقَوْمٌ هَؤُلَاءِ بَنَاتِي هُنَّ أَطْهَرُ لَكُمْ فَاتَّقُوا اللَّهَ وَلَا تَخْزُونِ فِي ضَيْفِي أَلَيْسَ مِنْكُمْ رَجُلٌ رَشِيدٌ ﴿٨٢﴾ قَالُوا لَقَدْ عَلِمْتُمْ مَالَنَا فِي بَنَاتِكِ مِنْ حَقِّ وَإِنَّكَ لَتَعْلَمُ مَا نُرِيدُ ﴿٨٣﴾ قَالَ لَوْ أَنَّ لِي بِكُمْ قُوَّةٌ أَوْ إِيَّاكُمْ إِلَىٰ رَبِّكُمْ لَأَكْتُبُ لَكُمْ قَالُوا يَلُوطُ إِنَّا رُسُلُ رَبِّكَ لَنْ يَصِلُوا إِلَيْكَ فَأَسْرِ بِأَهْلِكَ بِقِطْعٍ مِنَ اللَّيْلِ وَلَا يَلْتَفِتْ مِنْكُمْ أَحَدٌ إِلَّا أَمْرَاتُكَ إِنَّهُ وَمُصِيبُهَا مَا أَصَابَهُمْ إِنَّ مَوْعِدَهُمُ الصُّبْحُ أَلَيْسَ الصُّبْحُ بِقَرِيبٍ ﴿٨٤﴾

72 天使たちが吉報を伝えた時、サーラは驚いて言った。「私は年寄りで子供ができず、夫は老人だというのに、どうして子供ができましょか？このような状態で子供が生まれるのは、普通ありません。」

73 天使たちはサーラに言った。「アッラーのお定めとお力に驚くのか？アッラーがこのようなことをお出来になることを、知らないはずはないだろう。イブラーヒーム家の人々よ、あなたがたにアッラーのお慈悲と祝福あれ。アッラーはその属性と行いにおいて称えられ、栄光と高みにあるお方。」

74 食べ物に手をつけなかった客人らが天使であることを知り、イスハークが生まれ、その後にはヤアクーブが生まれるという吉報を受け取った後、イブラーヒームから恐怖が去った。かれはルートの民に関して、われらの使いたちと議論し始めた。それはかれらに対する懲罰が延期され、ルートとその家族を救って欲しかったためである。

75 イブラーヒームは罰の延期を望む寛容さを持ち、主にへりくだってたくさん祈り、悔悟する者である。

76 天使たちは言った。「イブラーヒームよ、そのような議論は止めよ。懲罰は定められたのであり、主のご命令が来た。ルートの民には偉大な懲罰が降りかかるのだ。議論も祈りも役には立たない。」

77 天使たちが人の男性の姿でルートのもとを訪れた時、かれは心苦しくなった。それはかれの民が女性ではなく、男性に欲望を持って近づく習慣があった。ルートは民を押しつけて客人に手を伸ばすだろうと思い、言った。「これは厳しい日だ。」

78 ルートの民が客人にみだらな事をしようと、ルートのもとに急いでやって来た。それ以前、かれらには女性ではなく、男性に欲望を持って近づく習慣があった。ルートは民を守り、客人への義務を果たすために言った。「これらはあなたがたの女性のうちの、わが娘たちだ。彼女らと結婚しなさい。それがみだらな事よりも清いこと。アッラーを畏れよ。わが客人のことで、恥をかかせるな。わが民よ、このような醜いことを禁じる、まともな理性を持った人はいないのか？」

79 民は言った。「ルートよ、わたしたちには、あなたの娘やあなたの民の女性に対する必要などなく、欲望もないことを知っているだろう。あなたはわたしたちの望みを知っている。それは男性なのだ。」

80 ルートは言った。「あなたがたを抑える力か、わたしを守ってくれる親族があったなら、あなたがたを客人から阻むことができたのだが。」

81 天使たちはルートに言った。「ルートよ、わたしたちはアッラーの使者だ。民があなたに害を及ぼすことはない。真っ暗な夜に家族と共に町を出よ。そして誰も後ろを振り返ってはならない。ただしあなたの妻は聞かずに振り返り、民が受ける罰を受けるだろう。かれらの滅亡の時は朝であり、それは近いのだ。」

本諸節の功德:

- アッラーに親しい者イブラーヒームとその家族の徳と地位。
- 信仰が期待できる者を弁護することの合法性。
- ルートの民のような行いの醜さの説明。

فَلَمَّا جَاءَ أَمْرُنَا جَعَلْنَا عَلَىٰهَا سَافَهَا وَأَمْطَرْنَا عَلَيْهَا
 حِجَارَةً مِّن سِجِّيلٍ مَّنصُودٍ ﴿٨٢﴾ مُسَوِّمَةً عِنْدَ رَبِّكَ
 وَمَاهِي مِّن الظَّالِمِينَ بِعَبِيدٍ ﴿٨٣﴾ * وَإِلَىٰ مَدِينَتِ أَخَاهُمْ
 شُعَيْبًا قَالَ يَقَوْمِ أَعْبُدُوا اللَّهَ مَا لَكُمْ مِن إِلَهٍ غَيْرُهُ
 وَلَا تَتَّبِعُوا المَكِّيَالَ وَالْمِيزَانَ بِالْقِسْطِ وَلَا تَبْخَسُوا النَّاسَ
 أَشْيَاءَهُمْ وَلَا تَعْتُوا فِي الْأَرْضِ مُفْسِدِينَ ﴿٨٤﴾ بَقِيَّتُ
 اللَّهِ خَيْرٌ لَّكُمْ إِن كُنْتُمْ مُؤْمِنِينَ وَمَا أَنَا عَلَيْكُمْ
 بِخَفِيضٍ ﴿٨٥﴾ قَالُوا يَشْعِيبُ أَصَلَوْتِكَ تَأْمُرُكَ أَن نَّتْرَكَ
 مَا يَعْْبُدُ آبَاؤُنَا أَوْ أَن نَّفْعَلَ فِي أَمْوَالِنَا مَا نَشْتَوُ إِلَّا تَك
 لَأَنْتَ الْحَلِيمُ الرَّشِيدُ ﴿٨٦﴾ قَالَ يَقَوْمِ أَرَأَيْتُمْ إِن كُنْتُمْ
 عَلَىٰ بَيْتَةٍ مِّن رَّبِّي وَرَزَقْنِي مِنْهُ رِزْقًا حَسَنًا وَمَا أُرِيدُ أَنْ
 أُخَالِفَكُمْ إِلَىٰ مَا أَنهَكُمْ عَنْهُ إِن أُرِيدُ إِلَّا الْإِصْلَاحَ
 مَا اسْتَطَعْتُ وَمَا تَوْفِيقِي إِلَّا بِاللَّهِ عَلَيْهِ تَوَكَّلْتُ وَإِلَيْهِ أُنِيبُ ﴿٨٧﴾

か?そしてわたしたちが自分の財産を好き勝手に使い、運用することも?このような呼びかけの前、わたしたちはあなたを理性と英知の人と思っていたが、どうしたのか?」

﴿88﴾ シュアイブは民に言った。「民よ、あなたがたが主からの明証と英知に基づいているのなら、あなたがたの状態について語ってみよ。わたしは主から合法的な糧と、預言者性を授かった。わたしはあなたがたに命じたことに、自ら反したくない。わたしは主の唯一性と服従へと招くことで、出来る限りあなたがたの状態を正したいと思っているだけ。それを成功させて下さるのはアッラーのみ。わたしはかれのみに全てを託し、かれへと帰り行く。

本諸節の功德:

- 不正者を最も厳しい罰で滅ぼすのは、アッラーの習いである。
- 寸法や秤を減らして人の権利を損ねることの非合法性。
- 少なかつたとしても、合法的なもので満足することの義務。
- 善を勧め悪を禁じることの徳。アッラーの命令と禁止を守ることの義務。

﴿82﴾ ルートの民を滅ぼすというわれらの命令が下された時、われらは町を上を上げてひっくり返し、逆さまにした。そして連なる固い泥の土による石の雨を、彼らの上に降らせ続けた。

﴿83﴾ それらの石には、アッラーの御許で特別な印がつけられていた。これらの石は、クライシュ族やその他の不正者たちから縁遠いものではない。アッラーがそれを降らせることをお決めになれば、いつでも降りかかる近さにある。

﴿84﴾ われらはマドヤンにその同胞シュアイブを遣わした。かれは言った。「民よ、アッラーだけを崇拝せよ。かれ以外に崇拝に値するものはない。寸法や秤を人に対して計る際に、それを減らしてならない。あなたがたは豊かな状態にあるが、アッラーの恩恵を罪によって変えてしまってはならない。わたしはあなたがたに懲罰が降りかかることを恐れる。それは誰一人として逃げ場所のない、包囲された日なのだ。

﴿85﴾ 民よ、寸法や秤を人に対して計る時には、公正にきちんと計れ。目盛りを減らしたり、騙したりして、人の権利を奪ってはならない。また、殺人などの罪によって地上で腐敗を行ってはならない。

﴿86﴾ 人の権利を公正に満たした後、あなたがたの手許に残った合法的なものが、目盛りを減らしたり腐敗を行うことによって得たたくさんのもよりも、有益で祝福があるのだ。本当にあなたがたが信徒なら、その残ったもので満足せよ。わたしはあなたがたの行いの監視役でも清算者でもないが、密やかなものをご存知のお方が見ておられる。」

﴿87﴾ シュアイブの民は言った。「シュアイブよ、あなたがアッラーに対して行う礼拝が、わたしたちの祖先が崇拝していた偶像を崇拝することを、わたしたちに禁じるの

وَيَقُولُ لَا يُجْرَمَنَّكُمْ بِشِقَاقِي أَنْ يُصِيبَكُمْ مِثْلُ مَا أَصَابَ
 قَوْمَ نُوحٍ أَوْ قَوْمَ هُودٍ أَوْ قَوْمَ صَالِحٍ وَمَا قَوْمَ لُوطٍ مِّنْكُمْ
 بِبَعِيدٍ ۝٨٩ وَأَسْتَغْفِرُكُمْ ثُمَّ تَوْبُوا إِلَيْهِ إِنَّ رَبِّي
 رَحِيمٌ وَدُودٌ ۝٩٠ قَالُوا أَيُّ شَيْبٍ مَّانْفِقُهُ كَثِيرًا مِّمَّا نَقُولُ
 وَإِنَّا لَنَرُّكَ فِيْنَا ضَعِيفًا وَلَوْلَا رَهْطُكَ لَرَجَمْنَاكَ وَمَا أَنْتَ
 عَلَيْنَا بِعَزِيزٍ ۝٩١ قَالَ يَقُولُونَ لَا تُطِئْ أَعْرُضِيكُمْ مِنْ اللَّهِ
 وَأَتَّخِذْ مَوْءُودًا كَمَا تَصِفُ رَبِّي إِنْ رَبِّي بِمَا تَعْمَلُونَ
 مُحِيطٌ ۝٩٢ وَيَقُولُونَ أَعْمَلُوا عَلَيَّا مَكَانَتِكُمْ إِنِّي عَمِلٌ
 سَوْفَ تَعْلَمُونَ مَنْ يَأْتِيهِ عَذَابٌ يُخْزِيهِ وَمَنْ هُوَ كَذِبٌ
 وَأَنْتَ تَقْبُلُ إِلَيْنَا مَعَكُمْ رَقِيبٌ ۝٩٣ وَلَمَّا جَاءَ أَمْرُنَا نَجَّيْنَا
 شُعَيْبًا وَالَّذِينَ آمَنُوا مَعَهُ بِرَحْمَةٍ مِنَّا وَأَخَذَتْ
 الَّذِينَ ظَلَمُوا الصَّيْحَةَ فَأَصْبَحُوا فِي دِيَارِهِمْ جِثْمِينَ ۝٩٤
 كَانُوا لَمْ يَعْتَوِفْهَا إِلَّا بَعْدَ الْمَدِينِ كَمَا بَعَدَتْ ثَمُودُ ۝٩٥
 وَقَدْ أَرْسَلْنَا مُوسَى بِآيَاتِنَا وَسُلْطَنٍ مُّبِينٍ ۝٩٦ إِلَى فِرْعَوْنَ
 وَمَلَائِكَتِهِ فَاتَّبَعُوا أَمْرَ فِرْعَوْنَ وَمَا أَمْرُ فِرْعَوْنَ بِرَشِيدٍ ۝٩٧

98 民よ、わたしに対する敵意ゆえに、わたしの伝えることを嘘としてはならない。ヌーフの民、フードの民、サーリフの民に降りかかったような罰が、あなたがたにも降りかかることを恐れる。ルート民は、あなたがたから時代的にも距離的にも遠いものではない。かれらに起こったことを知っているだろう。熟慮せよ。

99 そして主からのお赦しを求め、罪から悔悟せよ。主は悔悟する者に慈悲深く、愛情深いお方。」

91 シュアイブの民は言った。「シュアイブよ、あなたが伝えることはよく分からない。あなたの目が悪くなってから、わたしたちはあなたを弱者と見なしている。同族であるあなたの親類さえなければ、石を投げてあなたを殺したのだが。あなたは、わたしたちが殺害を恐れるほど大事な人ではない。殺さないのはあなたの親類への敬意からだ。」

92 シュアイブは民に言った。「民よ、わが親類が、主アッラーよりもあなたがたにとって大事で貴いのか？あなたがたに遣わされた使徒を拒否して、アッラーのことも放棄するのか？主はあなたがたの行いを全てご存知であり、現世では破滅によって、来世では懲罰によってあなたがたに報われる。」

93 民よ、あなたがたが満足するやり方で出来る限りのことをするがよい。わたしも自分が満足するやり方で出来る限りのことをする。あなたがたは知るだろう。わたしたちのうちの誰に辱めの懲罰が降りかかり、誰が嘘つきなのかを。アッラーの定めを待つがよい。わたしも一緒にそれを待とう。」

94 シュアイブの民を滅ぼすというわれらの命令が下された時、われらは慈悲によってシュアイブとかれと共に信仰した者たちを救い、不正な民は大響音に襲われて死んだ。かれらはうつ伏せに突っ伏して、顔を土まみれにした。

95 かれらはそれ以前、そこに住んでいなかったかのようだった。マドヤンはサムードがそうされたように懲罰を受け、アッラーのお慈悲から遠ざけられた。

96 われらはアッラーの唯一性を示す印と、伝えることの正しさを示す明白な根拠と共に、ムーサーを遣わした。

97 かれをフィルアウンとその民の首長たちに遣わしたが、首長たちはアッラーに対する拒否においてフィルアウンに従った。フィルアウンの命令は従うべき真理ではないのに。

本諸節の功德:

- 預言者たちがもたらす印を理解しない、無知な者たちへの非難。
- アッラーのご命令に背いて人間の命令に従う者への非難と侮蔑。
- 布教を支える近親の役割の説明。
- 多神教徒がアッラーのお慈悲から遠ざけられること。

يَقْدُمُ قَوْمَهُ يَوْمَ الْقِيَامَةِ فَأَوْرَدَهُمُ النَّارَ وَبِئْسَ الْوَرْدُ
 الْمَوْرُودُ ﴿٩٨﴾ وَأَتَّبَعُوا فِي هَذِهِ لَعْنَةَ وَيَوْمَ الْقِيَامَةِ بِئْسَ
 الرِّقْدُ الْمَرْفُودُ ﴿٩٩﴾ ذَلِكَ مِنْ أَنْبَاءِ الْقُرَى نَقِصُهُ وَعَلَيْكَ
 مِنْهَا قَائِمٌ وَحَصِيدٌ ﴿١٠٠﴾ وَمَا ظَلَمْنَاهُمْ وَلَكِنْ ظَلَمُوا
 أَنْفُسَهُمْ فَمَا أَغْنَتْ عَنْهُمْ آلِهَتُهُمُ الَّتِي يَدْعُونَ مِنْ دُونِ
 اللَّهِ مِنْ شَيْءٍ لَمَّا جَاءَ أَمْرُ رَبِّكَ وَمَا زَادُوهُمْ غَيْرَ تَتَابَعٌ ﴿١٠١﴾
 وَكَذَلِكَ أَخْذُ رَبِّكَ إِذَا أَخَذَ الْقُرَىٰ وَهِيَ ظَالِمَةٌ إِنَّ أَخْذَهُ
 أَلِيمٌ شَدِيدٌ ﴿١٠٢﴾ إِنَّ فِي ذَلِكَ لَآيَةً لِمَنْ خَافَ عَذَابَ الْآخِرَةِ
 ذَلِكَ يَوْمٌ مَجْمُوعٌ لَهُ النَّاسُ وَذَلِكَ يَوْمٌ مَشْهُودٌ ﴿١٠٣﴾
 وَمَا نُوَخِّرُهُ إِلَّا لِأَجَلٍ مَّعْدُودٍ ﴿١٠٤﴾ يَوْمَ يَأْتِ لَاتُكَلِّمُ نَفْسٌ
 إِلَّا بِإِذْنِهِ فَمِنْهُمْ شَقِيٌّ وَسَعِيدٌ ﴿١٠٥﴾ فَأَمَّا الَّذِينَ شَقُوا فِئْتِي
 النَّارِ لَهُمْ فِيهَا زَفِيرٌ وَشَهِيقٌ ﴿١٠٦﴾ خَالِدِينَ فِيهَا مَا دَامَتِ السَّمَوَاتُ
 وَالْأَرْضُ إِلَّا مَا شَاءَ رَبُّكَ إِنَّ رَبَّكَ فَعَّالٌ لِمَا يُرِيدُ ﴿١٠٧﴾
 * وَأَمَّا الَّذِينَ سَعِدُوا فِئْتِي الْجَنَّةِ خَالِدِينَ فِيهَا مَا دَامَتِ
 السَّمَوَاتُ وَالْأَرْضُ إِلَّا مَا شَاءَ رَبُّكَ عَطَاءٌ غَيْرُ مَجْذُوزٍ ﴿١٠٨﴾

- ⑨⑧ フィルアウンは審判の日、民を率いて地獄へ入る。その水飲み場の忌まわしさを。
- ⑨⑨ アッラーは現世において、かれらに呪いとお慈悲からの放逐をまとわせ、溺死させて滅ぼした。呪いとお慈悲からの放逐は、審判の日までかれらにまどわりつく。かれらに降りかかる2つの呪いと現世と来世での罰は、何と忌まわしいことか。
- ⑩⑩ この章で述べられた町の知らせは、使徒よ、**われら**があなたに知らせること。これらの町にはその印が残っているものもあれば、痕跡もなく消え去ったものもある。
- ⑩⑪ **われら**がかれらの滅亡によって不正を働いたのではなく、かれらがアッラーへの不信仰によって破滅に足を踏み入れることで、自分自身に不正を働いたのだ。かれらがアッラーを差し置いて祈っていた神々は、かれらを滅ぼすという主の命令によって罰が下された時、かれらの役には立たなかった。かれらの神々はこのような損失と破滅しか、助長しなかった。
- ⑩⑫ あらゆる時代と場所において、嘘呼ばわりした町に襲いかかったアッラーの捕え方も、同様だった。不正な町を襲った**かれ**の捕え方は、痛ましいものだった。
- ⑩⑬ それらの不正な町に対するアッラーの激しい捕え方は、審判の日の罰を恐れる者への教訓。その日アッラーは、清算のために人々を集める。集められた人々が立ち会う日である。
- ⑩⑭ 立ち会いの日は、既に決められた数しか遅らされることがない。
- ⑩⑮ その日、誰も許可なく議論や執り成しのために話すことはない。その日、人々は2つに分かれる。地獄に入る不幸な者と、天国に入る幸福な者である。

- ⑩⑯ 不信仰と悪行のために不幸な者たちは、地獄に入る。そこでは激しい炎に苦しむ声や息の音が上がる。
- ⑩⑰ かれらはそこに永遠に留まる。天地が続く限り、そこから出ることはない。ただしアッラーだけを崇拝していたが罪を犯していた者たちのうち、アッラーがお望みになった者たちは別。使徒よ、あなたの主はお望みのことを行うのであり、**かれ**に何か強制する者などない。
- ⑩⑱ 幸福な者たちは、信仰と正しい行いが運命づけられていた者たち。かれらは天地続く限り、そこに永遠に留まる。ただし罪を犯していた信徒のうち、アッラーが天国の前に地獄に入れることをお望みになった者たちは別。天国の住人に対するアッラーの安寧が途切れることはない。

本諸節の功德:

- 悪い指導者に従うことへの警告と、その現世と来世における悪い結末。
- 多神教や罪を犯す者たちの滅亡に関して、アッラーが不正とは無縁なことの説明。
- 多神教徒が崇拝している神々が審判の日に役立つことはなく、罰から守ってくれることはない。
- 審判の日に人々は2つに分けられる。天国に永遠に入る幸福な者と、地獄に永遠に入る不幸な者である。

فَلَا تَكُ فِي مِرْيَةٍ مِّمَّا يَعْبُدُ هَؤُلَاءِ مَا يَعْبُدُونَ إِلَّا كَمَا عَبَّدُوا
 آبَاءَهُمْ مِّن قَبْلٍ وَإِنَّا لَمَوْفُوهُم نَصِيدُهُمْ عَيْرَ مَنقُوصٍ
 ﴿١١٨﴾ وَلَقَدْ آتَيْنَا مُوسَى الْكِتَابَ فَاخْتَلَفَ فِيهِ وَلَوْلَا كَلِمَةٌ
 سَبَقَتْ مِن رَّبِّكَ لَقُضِيَ بَيْنَهُمْ وَإِنَّهُمْ لَفِي شَكٍّ مِّنْهُ مُرِيبٍ
 ﴿١١٩﴾ وَإِن كَلَّمْنَا لَيُؤْفِقَنَّهُمْ رَبُّكَ أَعْمَلَهُمْ إِنَّهُ بِمَا يَعْمَلُونَ
 خَبِيرٌ ﴿١٢٠﴾ فَأَسْتَقِمَّ كَمَا أَمَرْتَ وَمَن تَابَ مَعَكَ وَلَا تَطْغَوْا
 إِنَّهُ بِمَا تَعْمَلُونَ بَصِيرٌ ﴿١٢١﴾ وَلَا تَتَّخِذُوا إِلَى الَّذِينَ ظَلَمُوا
 فَتَمَسَّكُمُ النَّارُ وَمَا لَكُم مِّن دُونِ اللَّهِ مِنْ أَوْلِيَاءَ ثُمَّ
 لَا تُنصَرُونَ ﴿١٢٢﴾ وَأَقِمِ الصَّلَاةَ طَرَفِي النَّهَارِ وَرُفُلًا مِّنَ
 اللَّيْلِ إِنَّ الْحَسَنَاتِ يُذْهِبْنَ السَّيِّئَاتِ ذَلِكَ ذِكْرِي
 لِلذَّكِرِينَ ﴿١٢٣﴾ وَأَصْبِرْ فَإِنَّ اللَّهَ لَا يُضِيعُ أَجْرَ الْمُحْسِنِينَ
 ﴿١٢٤﴾ فَلَوْلَا كَانَ مِنَ الْقُرُونِ مِن قَبْلِكُمْ أُولُو بَقِيَّةٍ يَنْهَوْنَ
 عَنِ الْفَسَادِ فِي الْأَرْضِ إِلَّا قَلِيلًا مِّمَّنْ أَجَجْنَا مِنْهُمُ لِتَأْتِيَ
 الَّذِينَ ظَلَمُوا مَا أَتَوْا فِيهِ وَكَانُوا مُجْرِمِينَ ﴿١٢٥﴾ وَمَا
 كَانَ رَبُّكَ لِيُهْلِكَ الْقُرَى بِظُلْمٍ وَأَهْلِهَا مُصْلِحُونَ ﴿١٢٦﴾

⑪使徒よ、かれら多神教徒が崇拜しているものの悪を疑ってはならない。かれらの正しさを示す、理性的、合法的な根拠などないのだ。かれらがアッラー以外のものを崇拜しているのは、祖先の模倣に過ぎない。われらはかれらへの罰を、余すことなく完遂する。

⑫われらはムーサーに律法書を与えたが、人々はそこにおいて意見を異ならせた。ある者はそれを信じ、ある者は拒否した。罰を早めることなく、審判の日まで遅らせるといふ英知にあふれたアッラーの定めがなければ、かれらには現世で罰が下っていただろう。ユダヤ教徒と多神教徒からなる不信仰者たちは、クルアーンに対する疑念の中にある。

⑬使徒よ、意見を異ならせている前述の者たちに対し、あなたの主はその行いの報いを完遂される。善かった者たちには善い報いが、悪かった者たちには悪い報いがある。アッラーはかれらの行いの仔細をご存知である。

⑭使徒よ、アッラーのご命令通りにまっすぐな道を選び、かれのご命令と禁止事項を守れ。あなたと共に悔悟した信徒たちも正しい状態にさせ、罪を犯して限度を超えないようにさせよ。かれはあなたがたの行いに通曉し、それに対して報われるお方。

⑮妥協や愛情から不正な不信仰者におもねることで、地獄に入ってはいけない。あなたがたにはアッラー以外、そこから救ってくれる守護者も援助者もない。

⑯使徒よ、昼の始めと終わりに最良の形で礼拝を行え。また、夜の一部にも。正しい行いは小さな悪行を追いやるのだ。このことは熟慮する者たちへの訓戒である。

⑰正しい状態であれとのご命令と、度を越したり不正に傾いたりすることの禁止を守ることに耐えよ。アッラーは善行者の報奨を無駄にはなさない。かれはその行いの最良のものを受け入れ、最良のもので報いて下さる。

⑱あなたがた以前に罰が下った社会には、不信仰や罪によって地上に腐敗を広めることを禁じる、徳と正しさを備えた者たちがいなかったのか？腐敗を禁じるわずかな数の者しか、そこにはいなかったのだ。不正な民を滅ぼした時、われらはかれらを救った。不正者たちは安寧を追及していたが、そこにおいて不正を犯していたのだ。

⑲使徒よ、あなたの主は、町の民が地上における改善者である時、その町を滅ぼすことがない。滅ぼすのは、その民が不信仰や不正や罪で腐敗を広める者たちだった場合である。

本諸節の功德:

- アッラーの宗教において正しい状態であることの義務。
- 妥協や愛情から、不正を働く不信仰者におもねることへの警告。
- 善行が悪行を抹消するのは、アッラーの習いである。
- 善を勧め、腐敗や悪を禁じる有徳者の集団を作ることの勧め。かれらこそはアッラーの罰から守ってくれる者たちである。

وَلَوْ شَاءَ رَبُّكَ لَجَعَلَ النَّاسَ أُمَّةً وَاحِدَةً وَلَا يَزَالُونَ مُخْتَلِفِينَ
 ١١٨ إِلَّا لَمَنْ رَحِمَ رَبُّكَ وَلِذَلِكَ خَلَقَهُمْ وَتَمَّتْ كَلِمَةُ رَبِّكَ
 لَأَمْلَأَنَّ جَهَنَّمَ مِنَ الْجِنَّةِ وَالنَّاسِ أَجْمَعِينَ ١١٩ وَكَلَّا نَقْصُ
 عَلَيْكَ مِنْ أَنْبَاءِ الرُّسُلِ مَا نَشِئْتُ بِهِ فُؤَادَكَ وَجَاءَكَ فِي هَذِهِ
 الْحَقُّ وَمَوْعِظَةٌ وَذِكْرَى لِلْمُؤْمِنِينَ ١٢٠ وَقُلْ لِلَّذِينَ لَا يُؤْمِنُونَ
 أَعْمَلُوا عَلَىٰ مَكَانَتِكُمْ إِنَّا عَمِلُونَ ١٢١ وَأَنْتُمْ بِأَنَّا مُنْتَظِرُونَ
 ١٢٢ وَلِلَّهِ غَيْبُ السَّمَاوَاتِ وَالْأَرْضِ وَإِلَيْهِ يُرْجَعُ الْأُمُورُ كُلُّهَا
 فَأَعْبُدْهُ وَتَوَكَّلْ عَلَيْهِ وَمَا رَبُّكَ بِغَافِلٍ عَمَّا تَعْمَلُونَ ١٢٣

آياتها ١٣

سُورَةُ يُوسُفَ

آياتها ١٢

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

الرَّ تِلْكَ آيَاتِ الْكِتَابِ الْمُبِينِ ١ إِنَّا أَنْزَلْنَاهُ قُرْآنًا
 عَرَبِيًّا لَعَلَّكُمْ تَعْقِلُونَ ٢ نَحْنُ نَقُصُّ عَلَيْكَ أَحْسَنَ
 الْقَصَصِ بِمَا أَوْحَيْنَا إِلَيْكَ هَذَا الْقُرْآنَ وَإِنْ كُنْتَ مِنْ قَبْلِهِ
 لَمِنَ الْغَافِلِينَ ٣ إِذْ قَالَ يُوسُفُ لِأَبِيهِ يَا أَبَتِ إِنِّي رَأَيْتُ
 أَحَدَ عَشَرَ كَوْكَبًا وَالشَّمْسَ وَالْقَمَرَ رَأَيْتُهُمْ لِي سَاجِدِينَ ٤

118 使徒よ、人々が真理の上の一つの共同体となることを主がお望みなら、そうされただろう。しかしそうは望まなかったのだ。かれらは欲望の追求のために、真理においてまだ意見を異ならせている。

119 ただし、主が成功へと慈悲をかけてくれた者は別で、アッラーの唯一性において意見を異ならせることはない。この意見の違いによる試練のため、かれはかれらを創造した。かれらには不幸な者もいれば、幸福な者もいる。使徒よ、シャイターンを追従するジンと人間で地獄を満たすという、主の御言葉は原初において定められたのだ。

120 使徒よ、われらがあなたに語る過去の使徒たちに関する知らせはすべて、あなたの心を真理の上に確固とさせるため。この章には、あなたへの疑念の余地のない真理と、不信仰者に対する訓戒、信徒への有益な教訓があるのだ。

121 使徒よ、アッラーを信仰しないでその単一性を受け入れない人たちに言いなさい。真実を妨げ、他者にそれを妨げるあなたがたの行いを続けなさい。われわれも真実を守る行いを続け、それを呼び掛けて、忍耐強くするのだ。

122 わたしたちはあなたたちに何が起るかを見るし、あなた方はわたしたちに何が起るかを見るだろう。

123 アッラーだけが天と地の見えないことに関する知識を持たれる。何も隠されない。最後の日にはすべてがかれに返されるのだ。だからかれのみを崇めるように。使徒よ、すべてにおいてあなたの信頼をかれに寄せるように。かれが知らないことはない。かれは全知であり、誰に対してもその行いを報われる。

12. ユースフ章

マッカ啓示

本章の趣旨:

アッラーの友とされる近い者たちにとってのアッラーのご計画の妙、明るい将来の約束。

説明:

1 「アリアフ・ラーム・ラー」と同様の言葉については、雌牛章の冒頭で言及。クルアーンこの章において下された節は、その内容が明瞭なものである。

2 われらはクルアーンをアラビア語で下した。アラブ人よ、それはあなたがたがその意味を理解するためである。

3 使徒よ、われらはあなたにこのクルアーンを下して、最良の物語を語って聞かせる。それは正しく、言葉の使い方は万全で、修辞に富んだ話。あなたはクルアーンが下される前には、この物語を知らなかった。

4 使徒よ、われらはあなたに語って聞かせよう。ユースフが父ヤアクブにこう言った時のこと。「お父さん、わたしは夢で11の星と太陽と月を見ました。それらがすべて、わたしにサジダするのです。」この夢はユースフに対する、先駆けた吉報だった。

本諸節の功徳:

- クルアーンの中の物語に含まれる英知。それは預言者の心を堅固にし、信徒への訓戒とするためである。
- 幽玄界の知識はアッラーのみに属し、かれ以外の誰もそれを共有することはない。
- クルアーンがアラビア語で下されたことの英知。それはアラブ人が理解し、それを他の者に伝えるためである。
- クルアーンには最良の物語が含まれていること。

قَالَ يَبْنَى لَا تَقْضِ رِيَاكَ عَلَىٰ إِخْوَتِكَ فَيَكِيدُوا لَكَ كَيْدًا ۗ
 إِنَّ الشَّيْطَانَ لِلْإِنْسَانِ عَدُوٌّ مُّبِينٌ ﴿٥﴾ وَكَذَلِكَ يَجْتَسِيكَ
 رَبُّكَ وَيُعَلِّمُكَ مِنْ تَأْوِيلِ الْأَحَادِيثِ وَيُتِمُّ نِعْمَتَهُ عَلَيْكَ
 وَعَلَىٰ آلِ يَعْقُوبَ كَمَا أَتَمَّهَا عَلَىٰ أَبَوَيْكَ مِنْ قَبْلُ إِبْرَاهِيمَ
 وَإِسْحَاقَ إِنَّ رَبَّكَ عَلِيمٌ حَكِيمٌ ﴿٦﴾ * لَقَدْ كَانَ فِي يُوسُفَ
 وَإِخْوَتِهِ آيَاتٍ لِّلسَّاعِيْنَ ﴿٧﴾ إِذْ قَالُوا لِيُوسُفُ وَأَخُوهُ أَحَبُّ
 إِلَيْنَا مِمَّا وَنَحْنُ عُصْبَةٌ إِنَّ أَبَانَا لَفِي ضَلَالٍ مُّبِينٍ ﴿٨﴾
 اقْتُلُوا يُوسُفَ أَوْ امْكُرُوا بِهِ وَهُوَ كَذَّابٌ ﴿٩﴾ أَفَلَا يَرَوْنَ
 أَنَّهُمْ يُكْفَرُونَ بِمَا يَكْفُرُونَ أَفَلَا يَذَّكَّرُونَ ﴿١٠﴾ فَجَاءَهُ
 الْمُرْسَلُونَ فَقَالُوا عَلَيْكَ سَبْعُ ثَمَرٍ أَخَذُوا بِهَا
 عُصْبَتَهُ فِي الْأُخْرَىٰ وَإِنَّمَا تَأْكُلُ الْحَبَابَ وَتَأْتِيَ
 الْأَثْمَارَ وَتَكُنَّ مِنَ الثَّمَرَاتِ ﴿١١﴾ فَأَخَذُوا مِيثَاقَهُمْ
 لَعْنَةُ اللَّهِ عَلَىٰ الَّذِينَ كَفَرُوا وَأَطَاعُوا يَاقُونَ ﴿١٢﴾ فَتَوَلَّىٰ
 يُوسُفَ وَأَخُوهُ فَأَرْسَلْنَا يُوسُفَ مِثْلَ مَثَلِهِ ۗ إِنَّهُ كَانَ
 مُّذَكَّرًا ۗ فَجَاءَهُ وَنَحْنُ سَاهُونَ ﴿١٣﴾ فَأَخْرَجْنَاهُ مِنْ
 الدُّجَانِ فَذُكِّرْنَا لِلْأَعْيُنِ مَا يَخْتَارُ ﴿١٤﴾

⑤ ヤアクーブは子ユースフに言った。「息子よ、夢を兄たちには話すな。それを理解して嫉妬し、お前に企みごとをするかもしれないから。シャイターンは人間に対する明らかな敵なのだ。」

⑥ ユースフよ、主はお前を選び、お前に夢の解釈を教えられる。そしてお前の祖先イブラーヒームとイスハークにも以前そうしたように、お前に預言者性という恩恵を完遂してくれよう。主は創造を熟知し、その采配において英知あふれるお方。」

⑦ ユースフとその兄弟の物語には、かれらについて尋ねる者たちへの教訓がある。

⑧ 兄たちが内輪で、こう話した時のこと。「父はわたしたちよりも、ユースフとその弟を愛している。わたしの方が数が多のに、なぜ二人をわたしたちより好むのか？はつきりとした理由もなくそうするのは、父の明らかな間違いだ。」

⑨ ユースフを殺すか、遠い地にいなくしてしまえ。父の顔はあなたがただけに向き、あなたがたを完全に愛するようになる。その後には罪から悔悟し、正しい者となればよいのだ。」

⑩ 兄たちの一人は言った。「ユースフを殺すのではなく、井戸の底に投げ込め。そこを通った旅行者が連れて行くだろう。この方が殺害よりも害が少ない。もしあなたがたが言うように、かれのことで決心しているのなら。」

⑪ かれをいなくすることで一致すると、かれらは父ヤアクーブに言った。「父よ、ユースフのことをわたしたちに預けないのは、なぜですか？わたしたちはかれを思い、危険なことから守ります。あなたのもとに無事帰るまで、かれを保護し、世話します。どうして一緒に行かせてくれませんか？

⑫ 明日、かれがわたしたちと一緒に出かけ、食べ、楽しむことをお許し下さい。どんな害悪からも、わたしたちはかれを守ります。」

⑬ ヤアクーブは兄たちに言った。「あなたがたがかれと出かけるのが悲しい。かれと離れることが我慢できないのだ。あなたがたが遊んで不注意になっている間に、かれが狼に食べられてしまうことを恐れる。」

⑭ かれらは言った。「わたしたちは多勢なのに、ユースフが狼に食べられてしまったら、わたしたちに何の取り得もないことになります。狼からかれを守れなければ、わたしたちは損失者です。」

本諸節の功德:

- 正夢がありえること。その解釈の合法性。
- それを明かせば害悪が生じるような事実を隠しておくことの合法性。
- イブラーヒームの子孫の徳。かれらが預言者性という点において選ばれていること。
- 複数いる子供のいずれかに愛情を傾けることは、かれらの間に敵意や嫉妬の念を生む。

فَلَمَّا ذَهَبُوا بِهِ وَاجْمَعُوا أَن يَجْعَلُوهُ فِي غَيْبَتِ اللَّيْلِ وَأَوْحَيْنَا
إِلَيْهِ لَتُنَبِّئَنَّهُمْ بِأَمْرِهِمْ هَذَا وَهُمْ لَا يَشْعُرُونَ ﴿١٥﴾ وَجَاءَ وَ
أَبَاهُمْ عِشَاءَ يَبْكُونَ ﴿١٦﴾ قَالُوا يَا أَبَانَا إِنَّا ذَهَبْنَا نَسْتَبِئُ
وَتَرَكْنَا يُوسُفَ عِنْدَ مَتْعِنَا فَاكْأَلَهُ الدِّيبُ وَمَا نَتَّ
بِمُؤْمِنٍ لَّنَا وَلَوْ كُنَّا صَادِقِينَ ﴿١٧﴾ وَجَاءَ وَعَلَى قَمِيصِهِ
يَدٌ مِرْكُوبٌ قَالِ بَلْ سَوَّلَتْ لَكُمْ أَنفُسُكُمْ أَمْرًا فَصَبْرٌ جَمِيلٌ
وَاللَّهُ الْمُسْتَعَانُ عَلَى مَا تَصِفُونَ ﴿١٨﴾ وَجَاءَتْ سَيَّارَةٌ
فَأَرَسَلُوا وَاوَدَهُمْ فَأَدْلَى دَلْوَهُ قَالَ يَبُشْرَىٰ هَذَا غُلَامٌ وَأَسَرُّهُ
بِضْعَةٍ وَاللَّهُ عَلِيمٌ بِمَا يَعْمَلُونَ ﴿١٩﴾ وَشَرَوْهُ بِثَمَنٍ بَخْسٍ
دَرَاهِمَ مَعْدُودَةٍ وَكَانُوا فِيهِ مِنَ الزَّاهِدِينَ ﴿٢٠﴾ وَقَالَ
الَّذِي اشْتَرَاهُ مِن مِّصْرَ لَا مِرَّةٍ أَكْرَمِي مَثْوَاهُ عَسَىٰ
أَن يَنْفَعَنَا أَوْ نَتَّخِذَهُ وَوَلَدًا وَكَذَلِكَ مَكَّنَّا لِيُوسُفَ فِي
الْأَرْضِ وَلِنُعَلِّمَهُ مِن تَأْوِيلِ الْأَحَادِيثِ وَاللَّهُ غَالِبٌ عَلَىٰ
أَمْرِهِ وَلَكِنَّ أَكْثَرَ النَّاسِ لَا يَعْلَمُونَ ﴿٢١﴾ وَلَمَّا بَلَغَ أَشُدَّهُ
وَأَتَيْنَاهُ حُكْمًا وَعِلْمًا وَكَذَلِكَ نَجْزِي الْمُحْسِنِينَ ﴿٢٢﴾

から、かれが奴隷ではないことを知り、かれの家族から自分たちに害が及ぶのを恐れたのである。かれがかれらのもとに長く留まらなかったのは、アッラーのお慈悲によるものだった。

②1 エジプトでかれ(ユースフ)を買った男は、妻に言った。「かれによくしてやり、丁重に扱え。わたしたちに役立つようになるか、または養子にするかもしれない。」われらはユースフを殺害から守り、井戸から救い出し、貴人の心をかれに傾けたように、エジプトでかれを落ち着かせた。それはわれらがかれに、夢の解釈を教えるため。アッラーはご命令を執行され、誰からも強制されない。しかし不信仰者にはそれが分らないのだ。

②2 ユースフが身体的に成熟した時、われらはかれに理解と知識を与えた。これと同様に、崇拜行為をよく行う者に対してわれらは報いる。

本諸節の功德:

- 嫉妬の危険性。ユースフの兄たちはそれゆえに悪巧みをし、かれを殺そうとした。
- 法規定において、状況証拠に依拠することの合法性。
- ユースフが兄たちの愛情から阻まれた後、エジプトで貴人の心にかれに対する父性愛が授けられたのは、アッラーの采配と優しさによるものである。

①5 ヤアクーブはかれ(ユースフ)を、かれらと一緒に出かけさせた。かれらは遠くへ行くと、かれを井戸の底に投げ入れることを決意した。われらはこの時ユースフに、「あなたはかれらのこの行いについて、かれらに告げるだろう。その時、かれらはあなたのことを知らないのだが」と啓示した。

①6 ユースフの兄たちは夜、企みを成功させるため、泣きながら父のところへやって来た。

①7 かれらは言った。「お父さん、わたしたちは駆けこし、弓を投げて競争するために、ユースフを衣服や荷物番にして置いて行きました。そうしたら狼が食べてしまったのです。わたしたちが本当のことを言っても、あなたは信じてはくれないでしょうが。」

①8 かれらはその言葉を巧みに信じさせようとし、ユースフが狼に食べられた跡と思い込ませるため、かれのものではない血が付いたかれの衣服を持って来た。ヤアクーブは衣服が破かれていないことに気付き、言った。「あなたがたが語ったことは事実ではない。あなたがたは自分たち自身によって、悪事へと促されたのだ。わたしは動揺せず、よく忍耐しよう。あなたがたが語るユースフのことに関し、アッラーこそは援助を求められるお方。」

①9 通行する隊商がやって来て、給水人が遣わされた。かれは井戸の中につるべを下ろしたが、ユースフはその綱につかまった。給水人はかれを見ると、喜んで言った。「これは吉報。少年だ。」給水人と隊商のいく人かは、そのことを内緒にした。かれを売物にしようと思ったのだ。アッラーは、かれらがユースフに対して行う非礼や売却について、余すことなくご存知のお方。

②0 給水人とその仲間たちはエジプトで、数えられる位のディルハム硬貨で、かれ(ユースフ)を安く売った。かれを早く手放したかったので、無欲だったのだ。かれの状態

وَرَوَدَتْهُ الَّتِي هُوَ فِي بَيْتِهَا عَن نَّفْسِهِ وَغَلَقَتِ الْبَابَ
 وَقَالَتْ هَيْت لَكَ قَالَ مَعَاذَ اللَّهِ إِنَّهُ رَبِّي أَحْسَنَ مَثْوَايَ
 إِنَّهُ لَا يُفْلِحُ الظَّالِمُونَ ﴿٢٣﴾ وَلَقَدْ هَمَّتْ بِهِ وَهَمَّ بِهَا
 لَوْلَا أَن رَّءَا بُرْهَانَ رَبِّهِ كَذَلِكَ لِنَصْرِفَ عَنْهُ السُّوءَ
 وَالْفَحْشَاءَ إِنَّهُ وَمِنَ الْعِبَادِ لَلْمُخْلِصِينَ ﴿٢٤﴾ وَأَسْتَبَقَا
 الْبَابَ وَقَدَّتْ قَمِيصَهُ مِنْ دُبُرٍ وَأَلْفَيَا سَيِّدَهَا لَدَا الْبَابِ
 قَالَتْ مَا جَزَاءُ مَنْ أَرَادَ بِأَهْلِكَ سُوءًا إِلَّا أَن يُسْجَنَ أَوْ عَذَابٌ
 أَلِيمٌ ﴿٢٥﴾ قَالَ هِيَ رَاوَدْتَنِي عَنْ نَفْسِي وَشَهِدَ شَاهِدٌ مِّنْ
 أَهْلِهَا إِن كَانَ قَمِيصُهُ وَقَدْ مِّنْ قُبُلٍ فَصَدَقَتْ وَهُوَ مِنَ
 الْكَاذِبِينَ ﴿٢٦﴾ وَإِن كَانَ قَمِيصُهُ وَقَدْ مِّنْ دُبُرٍ فَكَذَبَتْ وَهُوَ
 مِنَ الصَّادِقِينَ ﴿٢٧﴾ فَلَمَّا رَأَىٰ قَمِيصَهُ وَقَدْ مِّنْ دُبُرٍ قَالَ إِنَّهُ
 مِن يَدَيْكَ إِن كَذَبْتَ كُنَّ إِذْ يَكَدُكَ عَظِيمٌ ﴿٢٨﴾ يُوسُفُ أَعْرَضَ عَن
 هَذَا وَاسْتَغْفِرِي لِذَنبِكِ إِنَّكِ كُنتِ مِنَ الْخَاطِئِينَ
 ﴿٢٩﴾ * وَقَالَ نِسْوَةٌ فِي الْمَدِينَةِ امْرَأَتُ الْعَزِيزِ تُرَاوِدُ فَتَاهَا
 عَن نَّفْسِهِ قَدْ شَغَفَهَا حُبًّا إِنَّا لَنَرَاهَا فِي ضَلَالٍ مُّبِينٍ ﴿٣٠﴾

23 貴人の妻が優しく巧みに、ユースフにみだらな事を求めた。そして二人きりになろうと、扉を閉めて言った。「さあ、来なさい。」ユースフは言った。「あなたの誘惑からのご加護をアッラーに求めます。ご主人はわたしによくして下さいました。わたしはかれを裏切りません。裏切ったらわたしは不正者となります。不正者は成功しません。」

24 彼女はみだらな事を望んだが、もしかかれがそのようなことを憤らせるアッラーの印を見なかったら、かれの脳裏にもそれがよぎっただろう。しかしわれらはかれを悪から解き放ち、姦淫や裏切りから守るため、それを見せた。ユースフは使徒となるために選ばれた、われらの僕である。

25 ユースフは逃げるため、彼女はそれを阻止しようと、二人とも扉へ急いだ。彼女はかれの衣服をつかみ、後ろから破いてしまった。扉のところに貴人がいた。彼女はうろたえて、かれ(貴人)に言った。「あなたの妻にみだらな事をしようとした者の罰は投獄か、痛ましい懲罰しかありません。」

26 ユースフは言った。「彼女が求めてきたのであり、わたしではありません。」そこで彼女の家族から証人を遣わし、証言させた。「ユースフの衣服が前から破れていたら、彼女が彼を止めようとしていたことになりますから、それは彼女の正直さの証となり、彼が嘘つきであることの証となるでしょう。」

27 しかし、ユースフの衣服が後ろから破れていたら、彼女が誘惑してかれが逃げていたこととなりますから、かれの正直さと彼女の嘘の証拠となります。」

28 貴人が見てみると、ユースフの衣服は後ろから破れており、かれの正直さを示していた。かれ(貴人)は言った。「このような嘘の訴えは、あなたがた女性の悪巧み。本当にあなたがたの悪巧みは強烈である。」

29 かれは言った。「ユースフよ、このことをなかつたことにし、誰にも言うな。そして妻よ、あなたは自分の罪の赦しを乞え。あなたはユースフの誘惑で罪を犯したのだから。」

30 この話は町中に広まった。女性たちのある一団は、非難して言った。「貴人の奥様が自分の奴隷を誘惑したのよ。愛情が抑えられなくなってしまったのね。奴隷を愛して誘惑するなんて、明らかな迷いにありますわね。」

本諸節の功德:

- よくしてくれる人を、その家族や財産において裏切ることの醜さ。ユースフはみだらな事を拒む理由として、それを挙げている。
- 預言者たちが悪事やみだらな事に陥ることに対しての、アッラーのご加護。
- みだらな事を拒み、避け、止めることの義務。
- 法規定において、状況証拠に依拠することの合法性。

فَلَمَّا سَمِعَتْ بِمَكْرِهِنَّ أَرْسَلَتْ إِلَيْهِنَّ وَأَعْتَدَتْ لَهُنَّ مُتَّكِنًا
وَأَتَتْ كُلَّ وَاحِدَةٍ مِّنْهُنَّ سِكِّينًا وَقَالَتْ أَخْرِجْ عَلَيْهُنَّ فَمَا رَأَيْتَهُ
أَكْبَرَهُ وَقَطَّعْنَ أَيْدِيَهُنَّ وَقُلْنَ حَاشَ لِلَّهِ مَا هَذَا بَشَرًا إِنْ هَذَا
إِلَّا مَلَكٌ كَرِيمٌ ﴿٣١﴾ قَالَتْ فَذَلِكُنَّ الَّذِي لُمْتُنَّنِي فِيهِ وَلَقَدْ رَاودنَّهُ
عَنِ نَفْسِهِ فَوَاسْتَعَصِمَ وَلَئِن لَّمْ يَفْعَلْ مَا آمُرُهُ لَيَسْجَنَنَّ
وَلَيَكُونَا مِنَ الصَّغِيرِينَ ﴿٣٢﴾ قَالَ رَبِّ السِّجْنُ أَحَبُّ إِلَيَّ مِمَّا يَدْعُونَنِي
إِلَيْهِ وَإِلَّا تَصْرِفْ عَنِّي كَيْدَهُنَّ أَصْبُ إِلَيْهِنَّ وَأَكُن مِّنَ الْجَاهِلِينَ
﴿٣٣﴾ فَاسْتَجَابَ لَهُ رَبُّهُ وَفَضَّرَفَ عَنْهُ كَيْدَهُنَّ إِنَّهُ هُوَ السَّمِيعُ
الْعَلِيمُ ﴿٣٤﴾ ثُمَّ بَدَأَ لَهُمْ مِن بَعْدِ مَا رَأَوُا الْآيَاتِ لَيْسَ جِنَّةً وَ
حَتَّىٰ حِينٍ ﴿٣٥﴾ وَدَخَلَ مَعَهُ السِّجْنَ فَتَيَانٍ قَالَ أَحَدُهُمَا إِنِّي
أَرَانِي أَعْصِرُ خَمْرًا وَقَالَ الْآخَرُ إِنِّي أَرَانِي أُحْمَلُ فَوْقَ رَأْسِي
حُبْرًا تَأْكُلُ الطَّيْرُ مِنْهُ نَبْتُهَا بِتَأْوِيلِهِ إِنَّا نَارِيكَ مِنَ
الْمُحْسِنِينَ ﴿٣٦﴾ قَالَ لَا يَأْتِيكُمَا طَعَامٌ تُرْزَقَانِهِ إِلَّا نَبَاتُكُمَا
بِتَأْوِيلِهِ قَبْلَ أَنْ يَأْتِيَكُمَا ذَلِكُمَا مِمَّا عَلَّمَنِي رَبِّي إِنِّي تَرَكْتُ
مِلَّةَ قَوْمٍ لَا يُؤْمِنُونَ بِاللَّهِ وَهُمْ بِالْآخِرَةِ هُمْ كَافِرُونَ ﴿٣٧﴾

③① 貴人の妻は自分が非難され、陰口を言われているのを聞くと、彼女たちにユースフを見せて言い訳するために、彼女たちを招待した。そしてじゅうたんと肘かけを置いた場所を準備し、招待客一人一人に食べ物のためのナイフを渡すと、ユースフに言った。「出てきなさい。」彼女たちはかれを見ると、その美しさに驚嘆し、ナイフで手を切ってしまった。彼女たちは言った。「アッラーの完全さよ!この少年は人間のものではないわ。これは高貴な天使でしょうに!」

③② 貴人の妻は彼女たちに言った。「これが、あなたがたがわたしの愛情を非難した若者です。わたしはかれを誘惑するために策謀しましたが、かれは拒みました。わたしの求めをまた拒めば、かれは投獄され、惨めな者となるでしょう。」

③③ ユースフは主に祈って言った。「主よ、彼女たちが求めるみだらな事をするより、牢獄の方がましです。彼女たちの悪巧みを取り除いてくれなければ、わたしは彼女たちへと傾いてその欲望になびき、無知な者となってしまいます。」

③④ アッラーはかれの祈りに答え、貴人の妻と町の女性たちの悪巧みを取り除いて下さった。かれはユースフと、かれを呼ぶ全ての者の呼び声を聞き、その状態を知るお方。

③⑤ 貴人とその民はユースフの潔白を知った後、この醜聞が広まらないように、一定期間かれを投獄することに決めた。

③⑥ ユースフと共に、二人の若者が牢獄に入った。その一人は言った。「わたしは夢で、酒を造るためにブドウを搾っているのを見た。」もう一人は言った。「わたしは頭の上にパンを運び、そこから鳥がついばむのを見た。ユースフよ、わたしたちが見たものの解釈を教えてください。あなた

あなたは見たところ、善人のようです。」

③⑦ ユースフは言った。「王でもそれ以外の者からでも、あなたがたにやって来る食べ物があれば、わたしはそれが届く前に必ず、その中身や方法についてあなたがたに語って聞かせよう。これは主がわたしに教えて下さった解釈であり、占いなどではない。わたしはアッラーも来世も信じない民の宗教を、放棄したのだ。」

本諸節の功德:

- 女性たちの試練の原因となったユースフの美しさ。
- ユースフはアッラーに反することより、投獄されることを好んだ。
- ユースフに夢の解釈を教え、それを牢獄という試練から脱却することの理由としたのは、アッラーの采配と優しさによるものである。

وَاتَّبَعَتْ مَلَآءَآءَآبَآءَ إِِبْرَاهِيمَ وَإِسْحَاقَ وَيَعْقُوبَ مَا كَانَ لَنَا أَنْ نُشْرِكَ بِاللَّهِ مِنْ شَيْءٍ ذَلِكَ مِنْ فَضْلِ اللَّهِ عَلَيْنَا وَعَلَى النَّاسِ وَلَٰكِنَّ أَكْثَرَ النَّاسِ لَا يَشْكُرُونَ ﴿٣٨﴾ يَصْحَبِي السِّجْنِ ءَأَرْبَابٌ مُتَفَرِّقُونَ خَيْرٌ أَمْ اللَّهُ الْوَاحِدُ الْقَهَّارُ ﴿٣٩﴾ مَا تَعْبُدُونَ مِنْ دُونِهِ ءَلَا أَسْمَاءَ سَمَّيْتُمُوهَا أَنْتُمْ وَءَأَبَآؤُكُمْ مِمَّا أَنْزَلَ اللَّهُ بِهَا مِنْ سُلْطَانٍ ءِإِنْ لَكُمْ إِلَّا اللَّهُ ءَأَمْرٌ إِلَّا تَعْبُدُوا ءَلَا إِلَآهَ إِلَّا هُوَ ءَلَكِنَّ أَكْثَرَ النَّاسِ لَا يَعْلَمُونَ ﴿٤٠﴾ يَصْحَبِي السِّجْنِ ءَمَّا أَحَدُكُمْ مَا فَیَسْقَى رَبَّهُ ءَحْمَرًا ءَمَّا الْآخَرَ فَيُصَدِّبُ فَتَأْكُلُ الطَّيْرُ مِنْ رَأْسِهِ ءَفِضَى الْأَمْرِ الَّذِي فِیهِ تَسْتَفْتِيَانِ ﴿٤١﴾ وَقَالَ لِلَّذِي ظَنَّ أَنَّهُ نَاجٍ مِّنْهُمَا اذْكُرْنِي عِنْدَ رَبِّكَ فَأَنَسَهُ الشَّيْطَانُ ذَكَرَ رَبَّهُ فَلَبِثَ فِی السِّجْنِ بِضْعَ سِنِينَ ﴿٤٢﴾ وَقَالَ الْمَلِكُ إِنِّي أَرَى سَبْعَ بَقَرَاتٍ سِمَانٍ يَأْكُلُهُنَّ سَبْعٌ عِجَافٌ وَسَبْعَ سُنبُلَاتٍ خُضْرٍ وَأُخَرَ يَابِسَاتٍ يَا أَيُّهَا الْمَلَأُ أَفْتُونِي فِی رُءْيَايَ ءِنْ كُنْتُمْ لِلرُّءْيَىٰ تَعْبُرُونَ ﴿٤٣﴾

38)そしてわたしの祖先、イブラーヒームとイスハークとヤアクーブの信仰に従った。それはアッラーを唯一神とする教えだ。わたしたちは、アッラーにどんな同位者も一切配してはならない。唯一であることにおいても、単一なのだ。この唯一なるものへの信仰は、わたしたちと全人類への、アッラーからの恩寵である。アッラーは人々に預言者たちを遣わしたのだから。でも人々の多くはその恵みに対して、感謝しない、それどころかそれを拒否する。

39) 牢獄の二人の若者に対して、ユースフは言った。友よ、多種多様の神々がよいのか、それとも他の誰にも支配できない、唯一の支配者アッラーのほうがよいのか。

40) かれの他にあなた方が仕えるものは、あなた方とその祖先が神々として名付けた名称にすぎない。アッラーはそれに対して何の神性も与えておらず、命名に対しては何の証拠も与えていない。仕えるものを統一し、それ以外を同列にしないというのが、アッラーの命令である。それが正しく、逸脱していない信仰である。でも多くの人々は知らないで、アッラー以外を同列に配して、被造物を崇拜している。

41) 牢獄の二人の友よ、あなた方の一人の夢について言えば、かれは牢獄を出て仕事に戻り、エジプト王のために酒を給仕する人になるだろう。また他の一人については、かれははりつけに処されて、鳥がかれの頭の肉を食べるだろう。あなた方二人が質問したことは、こう定められたのであり、それはやがてそのまま実現されるだろう。

42) そしてユースフは二人の中で、命が救われると思われた方(酒の給仕人)に言った。あなたの主人にわたしのことを伝えてくれ、私を解放してくれるかもしれないから。ところが悪魔は、かれがユースフのことをその主人に伝えることを忘れさせた。それでかれは、なお数年間獄中に留まったのだった。

43) エジプトの王は言った。わたしは7頭の肥えた雌牛が、7頭のやせた雌牛に食べられ、また穀物の7穂が緑で、他の7穂が枯れている夢を見た。有力者や指導者たちよ、もしあなたが夢を解釈できるならば、わたしの夢について説明してくれ。

本諸節の功德:

- イブラーヒームの教えに従い、不信仰者たちとは無縁であることの必要性。
- 「多種多様の神々」(39節)という個所は、エジプトの人たちは啓示の民ではあったが、多神教を信奉していたことを示す。
- アッラー以外の神々が崇拜されるものは、名称だけのことであり、一切の神性はない。
- アッラーへの伝道は、ユースフが服役中にしたように、諸々の出来事を利用すること。

قَالُوا أَضَعَتْ أَحْلَمٌ وَمَا نَحْنُ بِتَأْوِيلِ الْأَحْلَمِ بِعَالِمِينَ ﴿٤٤﴾
 وَقَالَ الَّذِي نَجَمْنَاهُمَا وَادَّكَرَ بَعْدَ أُمَّةٍ أَنَا أُنَسُّكُمْ بِتَأْوِيلِهِ
 فَأَرْسِلُونِ ﴿٤٥﴾ يُوسُفُ أَيُّهَا الصِّدِّيقُ أَفْتِنَا فِي سَبْعِ بَقَرَاتٍ
 سِمَانٍ يَأْكُلُهُنَّ سَبْعٌ عِجَافٌ وَسَبْعِ سُنبُلَاتٍ خُضْرٍ
 وَأُخْرَى يُاسْتِ لَعَلِّي أَرْجِعُ إِلَى النَّاسِ لَعَلَّهُمْ يَعْلَمُونَ ﴿٤٦﴾ قَالَ
 تَزْرَعُونَ سَبْعَ سِنِينَ دَأَبًا فَمَا حَصَدْتُمْ فَذَرَوْهُ فِي سُنْبُلِهِ إِلَّا
 قَلِيلًا مِّمَّا تَأْكُلُونَ ﴿٤٧﴾ ثُمَّ يَأْتِي مِنْ بَعْدِ ذَلِكَ سَبْعٌ شِدَادًا يَأْكُلْنَ
 مِمَّا قَدَّمْتُمْ لَهُنَّ إِلَّا قَلِيلًا مِّمَّا مَخَصُصُونَ ﴿٤٨﴾ ثُمَّ يَأْتِي مِنْ بَعْدِ ذَلِكَ
 عَامٌ فِيهِ يُغَاثُ النَّاسُ وَفِيهِ يَعْرِصُونَ ﴿٤٩﴾ وَقَالَ الْمَلِكُ أَتُوتَنِي
 بِهِ؟ فَلَمَّا جَاءَهُ الرَّسُولُ قَالَ ارْجِعْ إِلَى رَبِّكَ فَسْأَلْهُ مَا بَالُ
 النَّسْوَةِ الَّتِي قَطَعْنَ أَيْدِيَهُنَّ إِنَّ رَبِّي بِكَيْدِهِنَّ عَلِيمٌ ﴿٥٠﴾
 قَالَ مَا خَطْبُكُمْ أَيُّهَا الْمَرْءُ قَالَ يُوسُفُ عَنْ نَفْسِهِ قُلْنَ حَاشَ
 لِلَّهِ مَا عَلِمْنَا عَلَيْهِ مِنْ سُوءٍ قَالَتِ امْرَأَتُ الْعَزِيزِ النَّنْ حَصْحَصَ
 الْحَقُّ أَنَا رَوَدْتُهُ عَنْ نَفْسِهِ وَإِنَّهُ لَمِنَ الصَّادِقِينَ ﴿٥١﴾ ذَلِكَ
 لِيَعْلَمَ أَنِّي لَمْ أَخُنْهُ بِالْغَيْبِ وَأَنَّ اللَّهَ لَا يَهْدِي كَيْدَ الْخَائِبِينَ ﴿٥٢﴾

④④かれらは、これは混み入った夢で、わたしたちはこのように込み入った夢の解釈は不得手だと言った。

④⑤ところが牢獄から釈放された二人の内の酒の給仕人が、しばらくしてユースフのことを思い出して言った。その解釈をあなたに明らかにしてくれるユースフに尋ねるために、わたしを行かせてください。

④⑥到着するとかれは言った。ユースフよ、誠実な人よ、わたしたちに説明してくれ。7頭の肥えた雌牛が、7頭のやせた雌牛に食べられ、また穀物の7穂が緑で、他の7穂が枯れている夢について。それでわたしはエジプトの人々のところに帰り、かれらは知ることができるだろう。またあなたの特性や立場を知ることとなる。

④⑦ユースフは夢を解釈して言った。あなた方は7年間、懸命に種を撒いて収穫を刈り取り、あなた方が食べる少量を除いて、残りを毎年腐らないように穂のまま貯蔵する。

④⑧その豊作の7年間の後から、7年間の厳しい不作の年が来るので、あなた方は種子のために貯蔵する少々の穂を除いて、凶年のため前に残しておいたものから消費するのだ。

④⑨それからその後に来る1年間には、人々に豊かな雨があり、たつぷりブドウやオリーブやサトウキビをしぼることだろう。

④⑩そうすると王は、言った。かれ(ユースフ)を牢獄から解放して、わたしの元に補佐のために連れて来い。それで使者がユースフの所に来るとき、かれは釈放前に自分の無実なことをはっきりさせておこうとして言った。あなたの主人(エジプト王)の所へ戻って、あの手を傷つけた女性たちが誘惑したことについて質問せよ。わたしの主は、かの女たちの下心を全部ご存知なのだ。何も隠せないのだ。

④⑪王は女性たちに言った。あなた方がユースフの心を誘惑して不祥事をそそのかそうとしたとき、何があったのか。女性たちは王に答えて言った。「ユースフがそんなことをするはずがありません。アッラーに誓って、彼の悪いところなど何も知りません。」そして初めて王の妻は自分のしたことを認めて言った。「今、真実が明らかになりました。わたしがかれを誘惑したのであり、かれがしたものではありません。確かにかれは正直な人です。わたしがかれを訴えたことに関しては、かれが身の潔白を主張したとおりです。」

④⑫かの女は言った。わたしは、自分が誘惑したこととかれが正直なことを認めたので、これによってユースフの不在中に、わたしがかれに対して嘘を捏造しなかったことをかれは知るでしょう。またこれで自分としても、アッラーが嘘をつき、裏切る者を導くことはないことが分かりました。

本諸節の功德:

- ユースフが女性たちのしたこととして語ったとしても、有力者の妻とは言わなかったのは、かれの人徳であった。
- ユースフの夢の解釈能力が優れていたこと。
- 不正義が襲ってきたら、それに対抗して無実を訴えることの正当性。そして真実究明を要求することは、正しいことである。
- 正直さと真実の言葉は、たとえ自分に不利となっても、功德のあること。